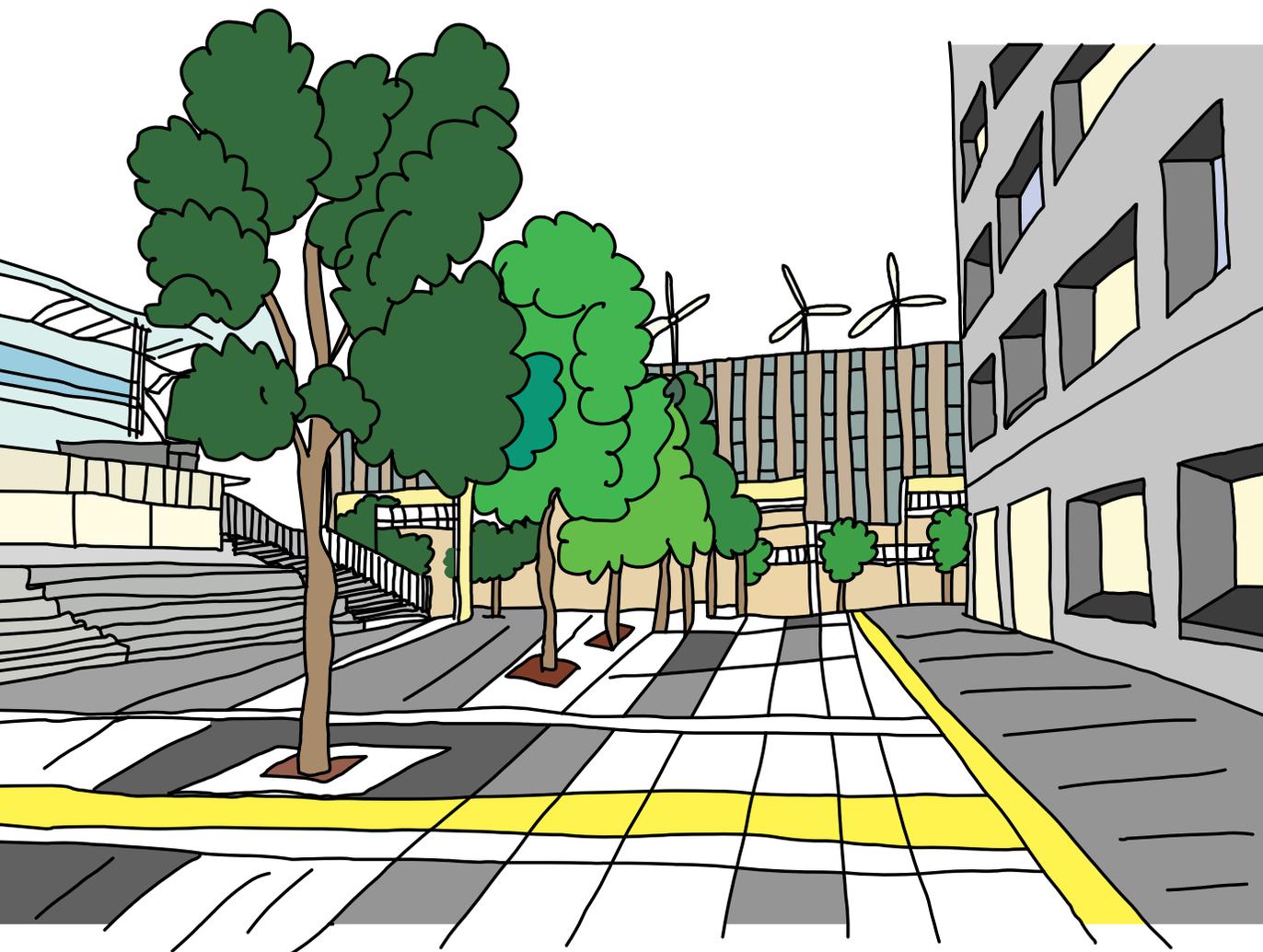


文学部へようこそ

 大東文化大学文学部
新入生サブテキスト

2024



大東文化大学文学部
新入生サブテキスト

文学部へようこそ

2024

文学部

教育研究上の目的

文学部は、人文諸科学に関する学識を修めることを通し、広い識見と深い洞察力をもち、人間の生き方やあり方を考究し、多様な現代社会ならびに国際社会の諸問題に対応できる人材を養成することを目的とする。

ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

文学部は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（日本文学・中国文学・英米文学・教育学・書道学・歴史文化学）の学位を授与する。

1. 豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能
 - (1) 人文諸科学に関する学識を修め、人間や世界に対する柔軟な想像力と洞察力を持つことができる。
2. 他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力
 - (1) 自ら設定した課題について、人間文化・地域文化・歴史文化・言語文化のいずれかの学問領域の研究方法を用いて、考察することができる。
 - (2) 他者の声に耳を傾け、自分の考えを口頭表現や文章表現によって、的確に伝えることができる。
3. 自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感
 - (1) 各学科で学んだそれぞれの専門性を生かし、社会において真摯に課題に取り組み、解決しようと努力することができる。
 - (2) 国際社会に対する広い識見をもとに、周囲と力を合わせ、未来を創造していく過程に参与することができる。
4. 本学の建学の精神や本学の理念に対する理解
 - (1) 多文化の横断的学びを通して、人文科学分野で社会との共生を実感できる成果をもたらし、社会に発信する新しい文化の創造に資することができる。

カリキュラムポリシー（教育課程編成の方針）

文学部は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

1. 教育内容
 - (1) 最初に、多様な現代社会に対応できるように、学部・学科を越えた全学共通科目として自然・社会・人文諸科学の各科目を学ぶ。さらに基礎教育科目としての外国語科目・情報処理科目等、また、キャリア・ジェンダー・芸術（創作を含む）といった現代社会において必須とされる諸科目を学び、各専門科目への基礎を築く。
 - (2) 次に、日本文学科・中国文学科・英米文学科・教育学科・書道学科・歴史文化学科の6学科それぞれの基礎科目と専門科目を学ぶ。それらは各学科において体系的にカリキュラムが組まれている。
2. 教育方法
 - (1) 各学科においては、少人数制のゼミや実践研究における課題に取り組むことによって、資料・情報の分析・読解能力、批評能力、自己表現能力、コミュニケーション能力、創造的実践能力の育成が目指されている。
 - (2) さらに各学科において、卒業論文や卒業制作、研究テーマへの総合的取り組みが、個別的指導のもとに行われる。
3. 評価方法
 - (1) 学位授与の方針に掲げられた能力の評価として、文学部における卒業要件達成状況、単位取得状況、GPA、外部客観テスト等の結果によって測定するものとする。
 - (2) 4年間の総括的な学修成果として、複数教員による卒業論文等の評価を行う。

目次

文学部で学ぶということ	4
文学とは何か？	7
これだけは知っておきたい大東文学	
日本文学科	9
これだけは知っておきたい ホン・モノ・トコロ	13
中国文学科	14
これだけは知っておきたい ホン・モノ・トコロ	18
英米文学科	19
これだけは知っておきたい ホン・モノ・トコロ	23
教育学科	24
これだけは知っておきたい ホン・モノ・トコロ	28
書道学科	29
これだけは知っておきたい ホン・モノ・トコロ	33
歴史文化学科	34
これだけは知っておきたい ホン・モノ・トコロ	38
column 吉見百穴／岩殿観音 正法寺	39
文学部で学ぶために	
レポートの書き方について	40
資料・文献のさがし方	45
博物館に行こう	48
留学に挑戦しよう！	50
映画を観よう	51
舞台を観よう	52
文学部のキャリア	54
話し方・書き方	60
文学部連絡先一覧	61

文学部で学ぶということ

文学部長 荒井明夫

新入生のみなさん。御入学おめでとうございます。文学部へようこそ！大東文化大学文学部の教員、職員、2年生以上の全員でみなさんの御入学を祝い、心から歓迎します。みなさんのこれからの4年間は、大東文化大学生として、また文学部の学生として様々な経験・出会い・大学生活を通じて獲得する知識や知恵をわがものとしていく時間です。さらに、その先の社会に出ていく力を自分の中に蓄積し、他者とともに自分を育てる大切な時間になります。

この『文学部へようこそ』は、みなさんのこれからの生活が少しでもスムーズに進むように作られました。みなさんの生活への希望や不安が生じた時開いてみて下さい。今ある不安は解消し、入学した文学部を発見できると思います。

1. 大東文化大学の歴史と文学部の発展

ここで、みなさんが入学された大東文化大学と文学部の自己紹介をします。

大東文化大学は、現在、文学部など8学部20学科、文学研究科などの7大学院研究科で構成され、約1万2千人の学生を擁する総合大学として発展してきました。

大東文化大学の前身、大東文化学院は1923年9月20日に文部省の設置認可を受け、翌年1月より「専門学校令」という法令に基づく私立専門学校として開校しました。今年2023年には創立百周年を迎えます。大東文化学院は、国庫補助による全額給費制度を掲げたこと、東洋文化について教育を行うことを第一の目的に謳っていること、などの理由で特殊な性格をもって設立された私立専門学校（高等教育機関）だったといえます。設立の母体となった財団法人大東文化協会は、「寄付行為」の中で次のように学院の設立を謳っています。

「本邦現時ノ情勢ニ鑑ミ儒教ノ振興ヲ図リ及東洋文化ヲ中心トスル大東文化学院ヲ設立維持スルコト」

今日の大東文化大学は、自分の大学のアイデンティティである建学の精神を、「漢学（特に儒教）を中心として東洋の文化を教授・研究することを通じて、その振興を図ると共に、儒教に基づく道義の確立を期し、更に東洋の文化を基盤として西洋の文化を摂取吸収し、東西文化を融合して新しい文化の創造を旨とす」と説明しています。これは大東文化学院発足時に示されたことは上でみたとおりです。

この建学の精神は、社会の進展と時代の変化の中で常に検証され、今では「多文化共生を目指す新しい価値の不断の創造」と読み替えられるようになりました。

東洋文化の研究から出発した本学の歴史を緋く時、アジアに軸を置いた研究と教育こそが本学の大きな特徴といえます。文学部のルーツも大東文化学院発足まで遡ることができます。大東文化学院発足時、教育課程表には「漢学」という名の中国文学・中国思想に関する授業科目や「皇学」という名の日本文学・日本思想に関する授業科目がみえます。これが今の日本文学科と中国文学科のルーツです。

戦後、日本国憲法下において新制大学として生まれ代わり、1949年に東京文政大学（さらにその2年後には文政大学）と改称しました。そこでは文政学部という1学部で、日本文学専攻、中国文学専攻、政治経済学専攻という3専攻体制でした。

1953年4月に大東文化大学と改称し、1962年に文政学部が文学部と経済学部に分離、独立して今日に至ります。その文学部は、1967年に英米文学科、1972年に教育学科、2000年に書道学科、2018年に歴史文化学科が開設され、現在6学科になっています。

2. 歴史の中の大学と文学部

次に、大東文化大学の位置を、世界と日本の大学史の中で確認してみましょう。

世界最古の大学といわれているボローニャ大学やパリ大学は、12～13世紀（一説には11世紀ともいわれる）に中世都市のネットワークを基盤に誕生しました。近代国家成立以前にこうした大学は登場していたわけです。そこでは自由学芸（リベラル・アーツ）と呼ばれる科目郡、すなわち文法学・修辞学・論理学・数学・幾何学、天文学、音楽、の計7科の修得と、その上に立つ法学・医学・神学の専門教育が行われていました。自由学芸（リベラル・アーツ）は、人間が持つ必要のある最低限の教養の基本と見なされていました。後に、産業革命の時代、大学は、社会の分化に対応した専門の研究と教育、及び社会的価値の検証と探求を重大な使命として今日に至ります。

じつは文学部のルーツもここに 있습니다。一つは人間にとって最低限の必要な教養として7科が指定されたこと。当時の神学部は、聖職者と宗教科目の教員養成が目的とされていました。その流れの中で、後に哲学が独立し文学部のルーツになっていきます。

一方で日本の近代的大学は、こうしたヨーロッパの大学が展開してきた歴史とは全く異質な歴史を辿ることになります。その第一は、小学校・中学校などなどの近代学校教育制度とほぼ同時期に発生し、発展してきたという点です。中世都市のネットワークを基盤としてその上に法や制度を重ねたヨーロッパの大学とは対照的に、学校教育制度という法や制度が大学を作り出してきたという点で異質です。第二は、日本の場合、したがって常に近代国家（政府や社会）との関係が問われたということです。とりわけ近代的な大学制度を確立した1886年の帝国大学令は大学の目的として次のように規定しました。

「帝国大学ハ国家ノ須要ニ応スル學術技芸ヲ教授シ及其蘊奥（ウンノウ・・奥深いという意味）ヲ攷究スルヲ以テ目的トス」

このように、大学の目的は「国家ノ須要ニ応スル」ことが規定されたのです。

日本の場合、大学は、良きにつけ悪しきにつけ、国家に役立つということが最初から求められたのです。

さて、大東文化大学の前身である大東文化学院は、先にも述べたように「専門学校令」に基づく専門学校として出発しました。専門学校とは「専門学校令」第一条で「高等ノ學術技芸ヲ教授スル学校ハ専門学校トス」と規定されています。これに基づく学校群には、宗教系学校、女子専門学校、医学専門学校などがあり、それらと比較してみても大東文化学院は非常に独特な性格をもった学校だったといえるのです。

3. 文学部の存在意義と社会的役割

では、私たちの文学部の存在意義と社会的役割はどこにあるのでしょうか。

文学部が常に言われ続けてきたことに「文学部が提供する教養はアクセサリーのようなもので、無いよりはあった方がよい程度のもの」とか、「文学部が教える内容は社会的には役に立たないが、人間には必要である」ということです。つまり「無いよりはあった方がよく、しかし社会的には役に立たない」という批判です。これは本当でしょうか。

先にも見たように、日本の大学は欧米の大学と異なって「国家ノ須要ニ応」じるという役割が与えられて歴史の中に登場してきました。日本では「大学は国家・社会に役に立つかどうか」が常に問われる社会的な土壌が形成されてきました。

その考え方を根本から変えて捉えてみる必要があります。ここで考えたいことは「役に立つ」ということです。「文系学部が役に立つか」という疑問は、常に「国家や産業・科学技術の開発」と結びついた問いであり、それは日本の大学の持つ歴史的特性からくることは既に示したとおりです。

結論からいえば「役に立つ」とは二つの、全く異なるベクトルがあるといえます。その二つを「技

術的な有用性」と「価値的な有用性」と呼ぶことにします〔この考え方は、ドイツの社会学者・マックス・ウェーバー(1864-1920)の「目的合理的行為」と「価値合理的行為」に倣って区分しています〕。

まず「技術的な有用性」を次のように説明しましょう。すなわち「国家や産業・科学技術の開発」においては、確かに大学の中でも理工系の学部などはそうした有用性を遺憾なく発揮していると思います。理工系の知と技術は、技術の進展・開発に貢献しているといえます。例えば、今から50数年前、東京と大阪という二大都市いかに早く結ぶか、そのことを社会的価値と認める要請に基づいて新幹線が開発されました。それを開発したのは間違いなく理工系の技術者たちでした。二大都市を早く結ぶ交通網を整備するという「技術的な有用性」をここに確認することができます。

それに対して「価値的な有用性」を考えてみます。今示した理工系の知と技術が開発した成果を活用するのは、いうまでもなく生身の人間です。先の例は、新幹線を駆使するのも人間です。その技術を活用する人間が、どのような価値意識・モラルで活用するかが鋭く問われます。価値意識やモラルが崩壊してしまつては理工系の知と技術が開発した手段・道具は、間違いなく人類社会に対する凶器に転化してしまうのです。

さらにいば、人間が生きている以上、社会的な価値認識自体が変化していきます。歴史の長いスパンで考えてみれば、社会の目的や価値の軸というものは必ず劇的に転換します。上で上げた例で言えば、東京と大阪の二大都市を高速で結ぶ交通網を整備するという1960年代の人々が共有していた社会の目的や価値の軸は、2020年代の今日では、環境を大切に騒音を抑えるという新しい社会目的と価値意識になっています。1960年代とは大きく違うものになっています。社会的価値意識・モラルはこうして劇的に変化したのです。

ではこうした社会的価値意識・モラルはどこから生まてくるのでしょうか。「技術的な有用性」の中からはこうした新たな価値意識は出てきません。それが可能となるのは、人間が生きている現代社会の中の価値の捉え直し・見直しからなのです。

そのために現代社会を生きる人間には、社会の不合理・不条理を直視し、それを批判的に捉えること、現代社会に「当然」として瀰漫(びまん・広がっていること)している風潮に疑問を提示すること、が求められます。いかえると社会に広がる価値(意識)とどう向き合い、交渉し、対話し、新たな価値を創出するかということです。

文科系の学問とは、この異なる価値軸の問題に対して極めて有効なのです。人間は他人になることは絶対でません。あたりまえのことです。しかし他者を理解することはできます。文学を通じて他者の生き方・考え方・心理を深く読み解くことで限りなく他者に近づくことができます。また歴史学は、現在とは異なる社会の価値意識の中で人々が生きた過去の世界を知ることができます。それによって自分たちが当たり前だと思っている現在の社会的価値を相対化すること、別な価値の創造がいかに大切かということがわかってくるはずで

そこにこそ文学部の存在意義と社会的使命があると思います。

4. 大学で学ぶということ。

大学で学ぶためにみなさんがこれまで体験してきた小学校から高等学校までの学びを一度リセットしてほしいと思います。これまでは「暗記する＝おぼえる」のが勉強だと思ってきたと思います。確かに新しい基礎・基本を獲得する上で覚える学びは必要ですが、その上に立って、更に大切なことは、テキストを書いた著者としてしっかり対話することです。2015年に亡くなった哲学者の鶴見俊輔氏は「大学でまなぶ知識は勿論必要だ。しかし覚えただけでは役に立たない。それを学びほぐしたものが血となり肉となる」と言っています。学んだ知識を「ほぐし血と肉にする」上では友人・仲間との対話が必要です。学問的対話(=argument)をみなさんの大学生活の基本に据えて、充実した大学生活を送って下さい。

文学とは何か？

■ 生のいとなみと一体化していること

ひとり机に向かっているときも、電車で中吊り広告を見つめているときも、休み時間の教室で友人とお喋りをしているときも、私たちは刻一刻と何かを感じ、何かを考えながら生きています。文学はそうした浮かんで消える思考と感情の動きに深く関わるいとなみです。生きることそのものと一体化した関係にあると言っても過言ではありません。

文学は実生活では役に立たないという、まことに荒っぽい通念があります。マーケットの利潤の競争というレベルで見れば、たしかに文学はとりたてて多くの収益を生むものではないかもしれません。しかし、文学表現のフィールドはさまざまな感情の揺れや思考の動きとともにある〈生〉の現況に直結しているわけですから、役に立たないという決めつけ方は、一面的な見方にすぎません。

文学はそもそも〈役に立つ／役に立たない〉といったような二分法による問題設定の有効性を疑うものなのです。「そんな単純な考え方こそ、非現実で空疎なものじゃないの？」と、問題の立て方の前提にこそ疑いの視線を投げかけるのです。

文学は人間の〈生〉の具体的な局面を寄り添いながら、その深みに下り、ときに未知の感情や思考を察知します。フィクションつまり虚構の言語の仕掛けによって、新たな現実をつきつけ、人間存在への豊かな洞察を誘うのです。

たとえば、ある作品で次のような言葉に出会ったとします。

「世界の涙の総量は一定なのさ。だから、誰か一人が泣きだすたびに、どこかで別の誰かが泣き止むんだ。同じことは笑いにも当てはまるよ。」

どうでしょう、ぐらりと気持ちが揺れませんか。ノーベル文学賞を受賞したアイルランド生まれの文学者サミュエル・ベケットの劇作『ゴドーを待ちながら』で、登場人物の一人がつぶやく台詞です。この言葉にふれる前と後では、私たちの幸不幸の考え方に明らかに変化が生ずるのではないのでしょうか。もし今あなたが悲しみに沈んでいる状態にあるとすれば、この世界の誰かのところにあつた涙がたまたま自分のところに集まっているにすぎず、そのことによってその人の悲しみや苦しみをひそかに和らげていることになるのです。人助けをしていると言ってもいい。もちろん、逆の喜びの総量に関しても同じことが言えます。涙も笑いも実は私たちすべてのものが、ともに分かち合っているにちがいないのです。

この「世界の涙の総量は一定量」という発想は文学の言葉によってこそ探り当てられ、文学的想像力によってはじめて表現され得るものです。このように文学は私たちの折々の〈生〉の現実に新たな光を当てると言えるでしょう。

■ 文学的想像力の働き

文学は人間の精神活動でもっとも重要な想像力（イマジネーション）の働きと不可分のものですが、この文学的想像力を別な視点から考えてみましょう。太宰治の中期の小説「富嶽百景」に、富士山をめぐる次のような話が出てきます。

太宰と思われる主人公は、山梨県の御坂峠の茶屋に滞在しています。富士山見物の名所です。ところが、彼はそこからの富士山はあまりに注文どおりで、好かないばかりか軽蔑さえしています。ある日、川口局に留め置きになっている郵便物を取りに行った帰りのバスで、たまたま隣合った老婦人が、なぜか富士山の見えない崖のほうばかり見つめています。富士のような俗な山を見たくない主人公は、いたくその姿に共感するのです。すると、おばあさんは独り言で「おや、月見草」とつぶやきます。その後が続くのは、とてもよく知られた文章です。

「三七七八メートルの富士の山と、立派に相對峙し、みじんもゆるがず、なんと言うのか、金剛力草とでも言いたいくらい、けなげにすくと立っていたあの月見草はよかった。富士には、月見草がよく似合う。」

主人公はそれまで、富士山を凡庸な山だと思って少しも感心していませんでした。ところが、おばあさんの一言をきっかけに月見草を発見したとたんに、富士の美しさに気づいたのです。つまり、月見草を介して、あるいは月見草との対比によって、富士の美しさ、雄大さに出会ったわけです。こうした二重視点によって生まれる新たな関係の場が、イメージに喚起力を呼び込みます。大と小、雄大さと可憐さ、遠景と近景といった対比性が隠れていたかもしれません。一つのものだけをいくら見つめても気づかないことが、それと「立派に相對峙」する何かとの関係のコンテキストの発見によって、認識の転換が起こるのです。

富士山を、思い切って私たちの人生に置き換えてみます。日々過ごしている生活に手応えがなく、その奥行や深さにふだんはあまり自覚的になれません。日常生活はいわば富士山です。でも、もしかしたら、私たちの人生において、月見草に相当する何かがあるかもしれないのです。それを発見したとたんに、私たちの日常がいかに深みのあるものか、その雄大な姿が見えてくるでしょう。

文学の仕事とは、言うならば「月見草」の発見のヒントを提示することです。ふだんは眠っていて、気がつかないことが、ある対比的なものの発見によって新たな認識の地平をひらく。もちろん、ジャンルごと、作品ごとに表現方法は異なりますが、じっくり読み進めていけば、一作ごとに「富士」と「月見草」を発見できるにちがひありません。二つのものを結ぶ力です。これはかぎりなく愛の力に近いものではないかとも感じられてきます。

難しいことではありません。私たちが生きていくなかで、何かを感じ、何かを考えることに自覚的である限り可能なはずですが。一見すると凡庸に見えるものが、実はそれこそが大きな意味を潜在させています。それだからこそ、文学は私たちの生の全領域に深く関与し、その多彩な言葉を通して私たちを根源から鍛えるのです。（参考・中村邦生著『はじめての文学講義』〈岩波ジュニア新書〉）

（日本文学科元教授 中村邦生）

日本文学科

▶ 作品を論じるとは、どういうことか——「新しい」は難しい！

日本文学の作品を対象に研究するとは、どういうことでしょうか。研究者に要求されるのは、感想文を書くことではありませんし、作品にまつわるさまざまな情報を収集することでもありません。後者は、研究の前提として必要な場合もありますが、それ自体が目的ではありません。文学研究に携わる者が目指さなければならないのは、作品について新しい読み方、新しい解釈や評価を提示することです。

個々の作品について、これまでにさまざまな読みや評価が示されてきています。文芸評論や先行論文を読めば、どういう読み方・どういう評価がなされてきたかを知ることができます。従来だれも思い至らなかった見方や評価を提示できたときに初めて「新しい」と見なされる資格が得られます。

これが非常に難事であるのは言うまでもありませんが、4年間の学びを通して、少しでもこれに近づけるように努力してください。演習の時間の発表やレポートでは、「新しい」にこだわらずに、先行論文を参考にしながら、一貫した読み方や整合的な解釈などを提示するよう努めてください。

▶ 芥川龍之介「俊寛」の場合——「新しい」は意外に簡単？

「新しい」読み方を提示するのは極めて難しいと述べましたが、一般的にはその通りだとしても、ちょっと角度を変えるだけで、新しい見方を得られる場合も少なくありません。芥川龍之介の「俊寛」(大11・1)も、そういう事例の1つと言えるかもしれません。

「俊寛」は、『平家物語』に描かれた俊寛に関して、新しい人物像を提示した作品と言えますが、芥川は、『平家物語』やその異本である『源平盛衰記』だけでなく、同時代の作家である倉田百三や菊池寛の同名の作品をも念頭に置いて執筆しています。この作品に関して、たとえば、長野^{じょういち}管一は、次のように述べています。

主人公たる俊寛の人物や性格には芥川らしい色づけをし、批判的な知識人、冷静な傍観者

という仮面をかぶせたため、大正期インテリの戯画にはなり得たが、無気力なアウトサイダーとなって生への積極的な意志は見えず、さりとて人間の弱さ・もろさ・エゴイズムを壮大に暴露する悲劇ともなっていない。ことには異常なシチュエーションに置かれた人間の示す心意や動作がなく、このために劇的な盛り上がりや、緊迫したクライマックスのない、至極平板な作品となり^{おわ}了った。(中略) 歴史の新解釈にも、しいて異を立てた附会の痕跡が著しい。倉田の悲劇の壮絶な鬼気、スケールの大きさには遠く及ばず、菊池の作に比しても、まさっているとは言いがたい。(『芥川龍之介と古典』平 16・1、勉誠出版)

全否定に等しい酷評で、倉田や菊池と比較しても、劣った作品とされています。

しかし、他の論者もそうですが、長野は、『平家物語』や倉田・菊池の作品にはない芥川の「俊寛」の独自な特徴を見落としています。それは、鬼界が島やその住民に対する差別的な見方がないことです。鬼界が島は、平家打倒の陰謀に加担した^{かど}廉で、俊寛たちが^{はいる}配流された、鹿児島県の南方に位置する島で、現在は硫黄島と呼ばれています。その島の様子が、『平家物語』では、次のように描かれています。

^{かのしま}彼嶋は、都を出てはるばると波路をしのいで^{いくところ}行所也。おぼろけには（並たいていでは）舟もかよはず。嶋にも人まれなり。をのづから（たまには）人はあれども、^{このど}此土（本土）の人にも似ず。色黒うして牛の如し。身には頻に（むやみに）毛おひつつ、^{いふことば}云詞も聞しらず。男は^{えぼし}烏帽子もせず、女は髪もさげざりけり。^{いしろう}衣裳なければ人にも似ず。食する物もなければ、^{ただ}只殺生をのみ先とす。(中略) 嶋のなかにはたかき山あり。^{とこしなへ}鎮に火もゆ。硫黄と^{いふ}云物みちみてり。かるがゆへに（このような理由で）硫黄が嶋とも名付たり。いかづち（雷）つねになりあがり、なりくんだり、麓には雨しげし。一日片時、人の命のたえてあるべき様もなし（耐えられそうもない）。



芥川龍之介『羅生門』（覆刻版）



喜界が島（硫黄島）
産業技術総合研究所・地質調査総合センター hp より

鬼界が島という名前に惑わされているのですが、島民は、文明や文化の恩恵の及ばない未開人というよりも、明らかに「人間」の範疇^{はんちゆう}を逸脱した化け物めいた存在として描かれています。島の環境も、この世の果てかのような印象を与られます。鬼の住む冥界や地獄がイメージされているようです。文化の中心地である都に住んでいた人々の、辺境地域とその住民に対する差別意識をあからさまに示していると言っていいでしょう。

驚くべきことに、大正期の作家であるはずの倉田百三や菊池寛も、このようなゆがんだ島民像と、偏見と差別に満ちた鬼界が島に対する見方を受け継いでいます。

倉田百三の「俊寛」（大7・3～9・6）は、作品自体は高く評価されるべきものですが、「一体此の島に生えてゐる草や木はどうしてこんなに醜いのでせう。私はすべての陰気なものを生み出すやうな祠^{ほこら}の陰の湿地にぐじやぐじやになつて、簇^{むら}がり生えた一種異様な不気味な色と形をした無数の茸^{きのこ}を見つけました。その時私はたまらなくなつて立ち上りました。私は餓鬼の祠を拝んでゐるのではないかと云ふ気がしたのです」（第一章）、「何と云ふ荒れた島だらう。都に居る時鬼界ヶ島の淋しい事は聞いてゐたが、これ程だらうとは思はなかつた。本当に鬼でも住むやうな島だ。この島で一日と暮らせやうとは思へない」（第三章）とあり、鬼に類した住民の住む、この世の果ての地という『平家物語』の鬼界が島観を継承していることが確認できます。

菊池寛の「俊寛」(大10・10)では、鬼界が島は、文明に毒されていない一種のパラダイスとして捉えられていますが、住民については、「鬼のやうな土人」という表現があり、『平家物語』以来の住民に対する差別意識を脱却していません。

これに対して、芥川の「俊寛」では、島と住民が次のように描かれています。

少時の後わたしたちは、浪ばかり騒がしい海べから、寂しい漁村へはひりました。薄白い路の左右には、梢から垂れた榕樹^{あこう}の枝に、肉の厚い葉が光つてゐる——その木の間に点々と、笹葺きの屋根を並べたのが、この島の土人の家なのです。が、さう云ふ家の中に、赤々と竈^{かまど}の火が見えたり、珍しい人影が見えたりすると、兎^とに角村里^{かく}へ来たと云ふ、懐しい気もちだけはして来ました。

御主人は時々振り返りながら、この家にゐるのは琉球人だとか、あの檻^{いのこ}には豕^{いのこ}が飼つてあるとか、いろいろ教へて下さいました。しかしそれよりも嬉しかつたのは、烏帽子さへかぶらない土人の男女が、俊寛様の御姿を見ると、必頭を下げた事です。(二)

琉球文化の影響もあつてか、内地とは事変わった風俗ですが、それなりの品位を備えた穏やかな住民の様子が確認できます。有王をもてなす俊寛の食卓には、「永良部鰻^{えらぶうなぎ}」や「白地鳥」、「琉球芋」などの珍しい料理が並んでおり、内地よりもかえって豊かなものを感じさせます。

以上のように、芥川の「俊寛」によって初めて、鬼界が島の住民は、鬼でもなければ、化け物でもない、私たちと同じ人間として描かれたのです。鬼界が島それ自体も、この世の果てでも、地獄でもない場所、——辺境に位置するとはいえ、人間が快適に生存しうる、ごく普通の地方として描かれました。

芥川は、『平家物語』以来伝承されてきた鬼界が島とその住人に対する見方、偏見と差別に満ちた眼差しから島とその住民を解放しようとしたのです。文化の中心に住む人々が辺境に住む人々に対して行使する暴力と抑圧に異議を差し挟み、彼らとその土地をあるがままの姿で提示しようとしたと言えるでしょう。

「俊寛」は、出来栄えの劣った失敗作とだけ見られてきましたが、この作品に託されたヒューマニスティックな(人間愛に根ざす)意図が明らかになり、それなりに意義深い作品であることが判明しました。

以上の考察は、ほんの少し見方を変えただけのもので、他の作品と比較するという、ごく簡単な考察しか行っていませんが、従来の研究が見落としていた一面に光を投げ掛け、作品に対する評価に変更を要求するものであることが理解していただけるかと思います。

この程度のことなら、皆さんにでも実行できると思うのですが、いかがでしょう。

(日本文学科 藤尾健剛)

ホン・モノ・トコロ

『日本近代文学大事典』全6巻(講談社)

近現代文学で、作品・作者・事項などを調べるとき、まず当たります。

『日本古典文学大辞典』全6巻(岩波書店)

古典文学で、作品・作者・事項などを調べるとき、まず当たります。

『日本国語大辞典・第2版』全13巻 別巻1(小学館)

古語・現代語を含めた日本最大の辞典。初版(昭47~51)もあるが、第2版(平12~14)を見ましょう。

『雑誌記事索引』 (国立国会図書館編、皓星社・紀伊國屋書店)

学術雑誌、大学紀要など国会図書館に納本された雑誌を対象にしています。インターネット版もあり、国会図書館のホームページの検索画面で、OPACと同じ要領で検索できます。

同様の検索システムに、国立情報学研究所の「CiNii(サイニー)」、国文学研究資料館の「国文学論文目録データベース」があり、前者は、大東文化大学のホームページにある図書館の画面からアクセスできます。

『大漢和辞典』全12巻 索引2(大修館書店)

字数49964字。日本最大の漢和辞典です。

国文学研究資料館

国文学研究資料館は、国内各地の日本文学とその関連資料を大規模に集積し、日本文学をはじめとする様々な分野の研究者の利用に供するとともに、それらに基づく先進的な共同研究を推進する日本文学の基盤的な総合研究機関です。

日本文学・日本語学に関する先行論文を収集する際には、国会図書館とともに、ここに足を運びます。

〒190-0014
東京都立川市緑町10-3
TEL: 050-5533-2900



中国文学科

中国古典に見える酒の話

中国文学科では中国や日本の漢文で記された古典を学ぶことができます。漢文の古典は膨大な量があり、大きく「文」「史」「哲」に分けて学ぶことができます。「文」は文学、『文選』や『古文真宝』に記載される詩文や李白・杜甫の詩等の散文や韻文を学ぶことです。「史」は史学、『史記』『三国志』等の正史や『資治通鑑』『十八史略』等の史書を学ぶことです。「哲」は哲学、『詩経』『書経』等の儒教の経典や戦国時代の諸子百家や秦・漢時代以降の思想書を学ぶことです。

ここでは「文」「史」「哲」のなかから酒にまつわる古典を紹介します。まず「文」から『捜神記』に収める「千日酒」と言う説話を紹介します。



図1 中山王墓出土の扁壺
(日本経済新聞社『中山王国文物展』(1981)より)

狄希は中山の人で、千日酒を造ることができた。これを飲めば千日酔（うほどの銘酒であ）った。同じ州の劉玄石は酒好きでこれを求めたが、まだ発酵していないために断られた。無理矢理一杯飲ませてもらい、もう一杯せがむと、狄希は言った、「とにかく帰って日を改めて来てくれ。いま飲んだ一杯だけでも千日は眠れるから」と。玄石は家に帰って酔いつぶれて死んだようになり、家人は死んだものと疑わずに悲しんで埋葬した。三年経ち、狄希は「玄石の酔も醒めたころ、様子を伺いに行くとしよう」と言って玄石の家を訪ね、「玄石は居られるか」と問うと、家人はいぶかって「玄石が亡くなって三年の喪が明けたところ」と言った。狄希は驚き、家人に千日酒の事情を伝えて墓を掘り棺を開くように命じた。行ってみると墓から湯気が立上っていた。直ぐに墓を掘らせると、ちょうど目を開けあくびをしながら間のびした声で「気持よく酔っぱらった」と言い、狄希に「お前はなんという奴だ。わしを一杯で酔いつぶすとは。今ちょうど醒めたぞ。ところで日も高いが何時か」と問うた。これを見ていた墓の周りにいた人たちは皆笑ったが、玄石の酒のおいを吸込んで、みな三ヶ月も酔いつぶれてしまった。

この話からすると、中山地方は昔から酒造りが盛んであったらしく、戦国時代中期の中山国^{ちゅうざんこく}出土の青銅器(図 1)には酒が残っており、試薬瓶に入れた酒(図 2)は透明で青みがかっており、銅器の成分が溶出していることが分かり、発掘時には酒の香がしたそうです。当時の醸造技術は低くて濁酒^{どぶろく}であったと考えられますが、銅器のなかで発酵熟成して透明になったのでしょうか。



図 2 扁壺に残存する酒
(日本経済新聞社『中山王国文物展』(1981)より)



図3 西周早期の「召」勺とセット
(台湾故宮博物院蔵「taipeinavi.com」より)



図4 西周時代のセットの勺と勺
(北京大学サックラー考古芸術博物館蔵 筆者撮影)

次に「史」から『史記』^{しんほんぎ}秦本紀に見える秦の穆公^{ぼつこう}のエピソードを紹介します。

穆公は自分の善馬を逃がしてしまい、岐山の麓^{きざん}の野人ら三百余人がこの馬を獲えて食べてしまったために、役人が野人を捕らえて裁こうとした。穆公は「君子は馬のために人を害せず。善馬の肉を食べて酒を飲まないと身体に悪いと聞いている」と言って、野人らに酒を振舞って赦した。後に、晋との戦に野人ら三百人は従軍を申出て、穆公の窮地に際して前線で戦い、馬を食べたときの徳に報いた。

このエピソードが事実か否かは判断しがたいのですが、『公羊伝』^{くようでん}僖公三十二年 (628 B.C.) に記録する穀^こ(地名)の戦に、穆公は家老の意見を無視して強行したために晋に大敗して命からがら逃げかえっており、この時に野人に助けられた可能性があります。また「善馬の肉を食べて酒を飲まないと身体に悪い」と言う伝聞は、春秋の覇者穆公を人徳ある人物とするために誇張したものかも知れません。また野人等が穆公の徳に報いたと言う落ちも、多分に儒家的な道徳観念が作用しているように思えます。

最後に「哲」から『書経』^{しゆきやうへん}酒誥篇に述べる禁酒令の訓戒を紹介します。

(周王は康叔に言った。) 酒をいつも飲んではいけない。諸国の君と飲むのもただ祭祀の時だけに限り、徳を持して酔うことのないようにしなければならぬ。……よく文王の教えを守り、酒に浸ることのないように心がけたため、我が周は今まで殷の天命を代わって受けることができた。……汝は強く酒を断たせよ。もし「集まって飲もう」などと言う者がいたら、汝は見逃さずにみな捕らえて獄に送れ、余はその者等を殺すであろう。

西周時代初期における飲酒に対する厳しい訓戒が述べられており、飲酒が殷王朝滅亡の原因の一つであったことに鑑みて作られた禁酒令です。殷代最後の紂王は「酒地肉林」の故事で有名であり、暴虐で贅を尽くしたために民衆が離反し、ついには周の武王に^{ぼくや}牧野(地名)の戦で敗れて殷王朝は滅亡します。ただ過度の飲酒が殷王朝滅亡の原因であるとする見方は、紂王征伐に関連した作為的傾向が読み取れます。祭政一致の体制であった殷王朝は、祭祀のための酒は王朝運営に欠くことができない要素であり、殷代後期の都(殷墟)からは甲骨文とともに大量の青銅器が出土しており、なかでも酒器が多く、殷を継いだ西周時代にも多くの酒器が出土しています(図3・図4)。

おわりに

中国文学科で「これだけは知っておきたい」モノを限定することは困難です。なぜなら「文」「史」「哲」それぞれが研究対象を異にし、かつそれぞれが研究する上での古典を異にしますから、それぞれに知らなければならないモノ、すなわち古典が異なるわけです。例えば、老子研究には、場合によってホンの項で掲げた『老子道德経』などの写本や版本が必要となるわけです。このように、それぞれの研究対象によって「これだけは知っておきたい」モノは「これだけは知っておきたい」ホンということになるわけです。またホン(古典)以外にも研究する上で重要なのは、トコロの項で紹介する博物館や美術館に収蔵するモノ(文物)です。博物館や美術館以外にも資料館・研究機関等のトコロは数えきれないほど多く、日本国内に限りません。国や県の運営する公立のトコロは質の高いモノを収蔵していますが、個人のコレクションを基にして運営する私立や区立・町立等のトコロも見逃せません。例えば、東京では書道博物館が有名で、画家であり書家でもあった^{なかむら ふせつ}中村不折が収集した中国や日本の膨大なコレクションを収蔵しています。京都では^{ふじい ゆうりんかん}藤井有鄰館が書道博物館と似ており、滋賀県の実業家藤井善助の中国の文物を中心としたコレクションを収蔵しています。収蔵品の中には^{かきよ}科挙(中世近世の中国で役人になるための試験)のときにカンニングに用いた下着があり、細字の楷書で下着の表裏全面に^{ししよごきょう}四書五経60万字をびっしりと書き込んでいます。したがって、モノはホンやトコロと表裏一体の関係にあるわけです。(中国文学科元教授 吉田篤志)

ホン・モノ・トコロ

『老子道德経』

大東文化大学図書館には、江戸時代に日本に残存する漢籍を記録した『経籍訪古志』に「小島宝素蔵」と記す『老子道德経』2巻を所蔵しています。これは、室町天正6（1578）年に、足利学校にいた真瑞というお坊さんが書写し、もともと足利学校に所蔵されていたものが、江戸末に医官のこしまなおかた小島尚質（号は宝素 1792-1848）の蔵書として『経籍訪古志』に著録され、その後、森立之（たつゆき 1807-1885）の手に移り、さらにその後『言海』で知られる大槻文彦の所蔵となり、古書店の巖松堂を経て王子製紙代表取締役であった高島菊次郎の手に移り、昭和44（1969）年、高島氏の逝去に際して大東文化大学に寄贈されたものです。大版2冊の写本で、大変貴重なものです。

ねづびじゅつかん 〒107-0062 東京都港区南青山6丁目5-1
根津美術館 TEL: 03-3400-2536

東武鉄道の社長等を務めた実業家の根津嘉一郎のコレクションを展示しています。美術館は日本庭園のなかにあり、都心とは思えない風情があります。コレクションは多岐にわたりますが、目を引くのは仏像と青銅器で、特に青銅器は珍しいものが多く、重要文化財「饗養文方盃」は3個セットで殷墟出土と伝えられ、殷王の所有物であった可能性があります。「盃」とは酒を他の酒や香料などと混ぜ合わせる攪拌器です。また重要文化財「双羊尊」は背中合わせに2匹の羊を合体させ、背の中央に饗養文のある器を載せるユニークな形です。「尊」とは酒を神前に供する器で、動物の形をしたものが多く発見されています。同形のはロンドンの大英博物館に蔵するだけです。年に数回の企画展があります。

『ある歴史家の生い立ち』（岩波書店）

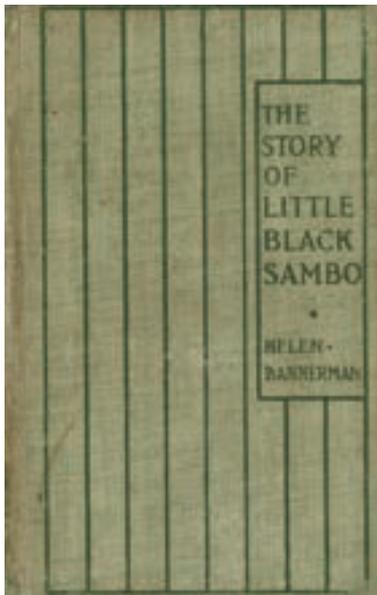
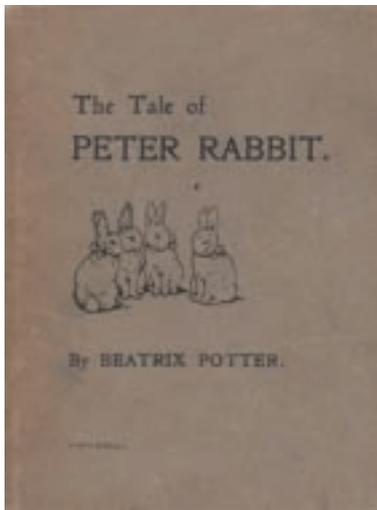
民国初期の学者顧頡剛が自身の研究歴や研究方法を述べたもので、疑古派の学者の論文を編集した『古史辨』（1926年刊）の自序を平岡武夫が訳し、現在は岩波書店の文庫本として刊行されています。疑古派とは民国初期に儒教等の旧習に縛られた国学（古典）を見直し整理しようという運動を起こした学者たちのことで、顧頡剛はその旗振り役を務めました。彼の研究対象は幅広く「文」「史」「哲」にまたがり、研究方法も文化人類学や地理学等の科学的な手法を用いて行われ、古典文献や既存の研究に対してことごとく疑問を呈したことから、「疑古」の呼び名がついたわけです。古いものほど疑ってかかからねばならないことを、この本を通して学ぶことができます。

せい か どうふん こ 〒157-0076 東京都世田谷区岡本2-23-1
静嘉堂文庫 TEL: 03-5777-8600（ハローダイヤル）

現在は静嘉堂文庫美術館と称しています。三菱財閥の岩崎弥之助・小弥太父子の所有した庭園と遺品を基に造られた美術館で、古典籍や美術品の公開展示（年に数回の企画展）を行っており、多摩川を望む庭園も一般に公開しています。弥之助は漢学を重野安繹に学び、重野の研究を助けるために漢籍を収集し、清代の蔵書家陸心源の韻宋楼蔵書4万数千冊を購入し、宋版や元版を含む貴重なコレクションをもたらしました。小弥太は弥之助の遺志を継いで、高輪の別邸から弥之助の墓がある現在の地に文庫を建て、研究者へ蔵書の公開を始めました。大学生は教員や図書館の紹介状があれば利用できます。なお美術館が所蔵する国宝「曜変天目茶碗」が有名で、企画展で展示する時に見ておきたいものです。

英米文学科

イギリス文学（イギリス文化）



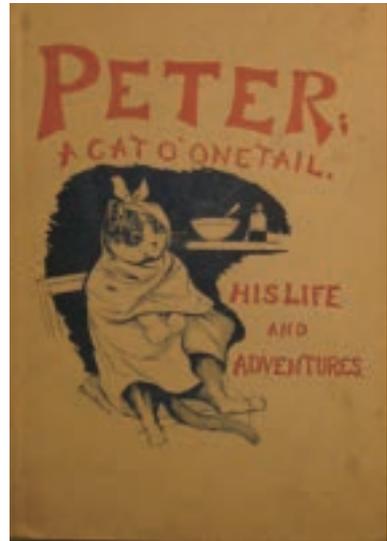
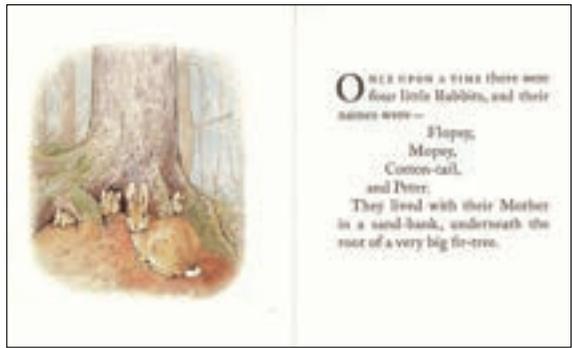
ここでは「英米児童文学を味わう A」で読んでいるビアトリクス・ポターの『ピーターラビットのおはなし』(*The Tale of Peter Rabbit*, 1902年)の最初の1ページ目を取り上げましょう。受講生に原作の英語を丁寧に訳してもらいつつ、以下のような説明を加えてゆきます。

まづ最初にこの絵本の題名について。*The Tale of Peter Rabbit* は最初、私家版で出版されましたが、これは当時ベストセラーになっていたヘレン・バンナーマンの『ちびくろさんぼのおはなし』(*The Story of Little Black Sambo*, 1899年)を意識してつけられました。題名に主人公の名前を用いたのは、子ども向けの絵本というのが大きな理由です。しかしバンナーマンが「おはなし」に「story」を使っているのに対して、ビアトリクスは「tale」としました。この「tale」（おはなし）は、作品に登場するウサギ、ネズミ、リスといった動物が持つ愛らしい「tail」（尻尾）との掛け言葉です。*The Tale of Peter Rabbit* は「ピーターラビットのおはなし」であると同時に「ピーターラビットの（可愛い）尻尾」という意味を含んでいるのです。ちなみに物語の最初の挿絵には、モミの木の根元に頭を隠して、尻尾をこちらに向けているピーターが描かれています。またビアトリクスの第2作目のネズミが登場する『グロースターの仕立て屋』(*The Tailor of Gloucester*, 1903年)は、登場人物の名前が題名に含まれない例外的な作品ですが、この「tailor」（tail +

er) も「尻尾を持つもの」の語呂合わせとすることができましょう。また3作目の『りすのナトキンのおはなし』(*The Tale of Squirrel Nutkin*, 1903年)は、いたずら者のナトキンがフクロウのブラウンじいさんに尻尾をむしり取られるという物語です。

物語に登場するのは、小ウサギのフロプシー、モプシー、カントンテール、ピーター、そしてその母親ウサギと農夫のマグレガーさんなど。これは今まで誰も言っていないことですが、「カントンテール」という名前は、チャールズ・モーリーの代表作『ピーター：尻尾が1本のネコ』(*Peter: A Cat o'One Tail*, 1892年)の副題をもじって命名したものだと思います。ビアトリクスは言葉遊びが大好きでした。他のウサギたちの名前の由来は?……その続きは教室で。

(英米文学科 河野芳英)



▶ アメリカ文学

アメリカ文学の研究という形式の内には、多様な内容があふれています。ゆえに、「アメリカ文学という分野では、ひとことではいへば、何を学ぶのですか」と問われ、簡単な説明を試みはするものの、その説明をしている私自身が心の底からは納得していないということが少なからずあります。簡単な例を挙げてみましょう。仮に「アメリカの作家によって書かれた文学作品を読む」ということを、アメリカ文学研究の具体的な目的として設定したとします。一見すると、その企ての内容は、十分に明白であるように思われるかもしれませんが、しかし、実際には、この一行にすら、議論されるべきさまざまな問題が内在しています。たとえば、「アメリカ」とは何か。アメリカ合衆国、北アメリカ、南アメリカ、アメリカ大陸——瞬時に、この語の指示対象として、重なり／接しはするものの、範囲がことなる、複数の場所が想起されるはずで。そして、それがいつの時代を前提とするのか。アメリカ合衆国が独立を宣言したのは1776年ですが、その基礎となるイギリスの植民地がこの地に建設され始めるのが1607年。し

かし、それ以前にも、のちにアメリカと呼ばれることになるこの地には、のちにインディアン、ネイティブアメリカンと呼ばれることになる多くの人々が暮らしていました。これに加えて、独立宣言より前にも後にも、もともとは世界の異なる地域に暮らしていた人々による、アメリカ大陸への流入によってこの共同体が形成されていったという状況もあります。こうした状況を踏まえた上で、国としてのアメリカと、それが産み出した文学を、どのような時間的区分を用いて理解するのか。また、「アメリカの作家」とは誰の事を指すのか。アメリカ生まれの作家、それともアメリカに暮らす作家、あるいはアメリカについて書いている作家、もしかするとアメリカの言語で書いている作家のことでしょうか。そもそも、「作家」とは何か、「文学作品」とは——という具合に、歴史的／社会的／文化的／その他さまざまなコンテキストとそれらの解釈に関わる数多くの問いが、アメリカ文学の作品を読むという行為につきまとうのです。もしも、ただアメリカで出版された小説や詩を英語で読むというイメージでアメリカ文学の研究を捉えているのだとしたら、それはこの分野における最も基礎的な一部分に過ぎません。常に、特定のコンテキストとの関連で文学作品を読み、テキスト自体についても、そのコンテキストについても、深く考えるという試みが、アメリカ文学研究の中心においてなされているのです。

* 下は、過去に私の授業で使用した作品です。これは、「小説」というものの多様性を考える上での、良い例であると言えます。一見すると漫画のようなこの作品に与えられるジャンル名として、現代では「グラフィック・ノベル」という言葉があります。「グラフィック・ノベル」は旧来の小説と同じように、文学的な読解／研究の対象となり、文学研究の多様化に貢献をしています。

Fun Home: A Family Tragicomic (2006) Alison Bechdel
(英米文学科 日野原慶)



英語学について

英語学の出発点は、英語という言葉にある様々な不思議を考えることです。

皆さんは中学校から高校まで英語を学ぶ中で、英語という言葉について、「なぜ？」と思っ
た経験はないでしょうか。例えば・・・

- ・「夜」を表す単語は night と書いて、どうして「ナイト」と発音するの？
- ・どうして、「三単現」の -s をつけるの？ (Mary plays tennis の plays にどうして -s を付け
るの?)
- ・ <w> の文字は、<v> の文字が並んでいるのに、どうして「ダブル・ユー (=ダブリュー)」と
呼ぶの？
- ・「豚」は pig なのに、「豚肉」になるとどうして全然違う pork という単語になってしまうの？
- ・ McDonald という名前は、どうして D が大文字なの？ どうして Mc と書くの？

皆さんの多くは、上に書いたような疑問を「なぜ？」と思うことなく、「そういうものだ」と受け入れて、ただひたすら英語を学んでいきたくも知れません。

しかし、私たちの先人の英語学研究者たちは、こういう英語の「なぜ？」を放っておきま
せんでした。これらの問題について、頭を抱えて真剣に考え、色々な資料を調べ尽くして、それ
ぞれが納得のいく答えを見つけていったのです。

「研究」を表す study の原義は「探し求める」です。学生を表す student という語は「探し
求める人」が原義です (study も student も最初の 4 文字が同じですね)。これを読んでいる学
生の皆さんも、これを書いている教員も、先人の研究者たちも、みな student なんです。

英語学は、英語についての研究です。上に書いた通り、英語の綴りや発音、文法、使われ方には、
不可解なことがたくさんあります。これらの不可解に対する説明を「探し求める」ために、様々
な資料を読み解いて情報を集め、考えて、答えを出す。これが、英語学の研究です。

英米文学科の英語学の授業の中で、英語が持つたくさんの不思議について、考えてみましょ
う。そして、先人の研究者たちが、それらの不思議に対して、どんな回答を与えてきたかを見
ていきましょう。そして、今度は、皆さん自身が自分で英語の不思議を見つけて、自分自身
で資料を調べて、自分なりの回答を探し出してみてください。英語学の「探し求め」 (=研究)
を楽しみましょう！

(英米文学科 小池剛史)

ホン・モノ・トコロ

『ハックルベリー・フィンの冒険』 (マーク・トウェイン著)

何度読んでも面白いと思うのは、マーク・トウェインの『ハックルベリー・フィンの冒険』です。家族から逃亡して、友達と一緒に雄大なミシシッピー河を筏で下っていく話なのですが、その友人が黒人逃亡奴隷なので、厄介な問題が生じます。逃亡したい、自由になりたいという皆さんは、この本を手にとってみてください。

『私を離さないで』(カズオ・イシグロ著)

2017年ノーベル文学賞の日系イギリス人作家カズオ・イシグロ作『私を離さないで』(*Never Let Me Go*)は大変高い評判を得ています。映画化もされ、日本でテレビドラマにもなりました。物語は、イギリスのある全寮制の男女共学の学校を舞台に、秘密めいた寮生活と人間関係が語られますが、実はこの学生たちは人間に臓器を提供するために作られたクローンであり、「死」への運命が取り上げられています。

大東文化大学ビアトリクス・ポター資料館

『ピーターラビットのおはなし』の作者、ポターが暮らした英国・湖水地方のヒルトップ農場が再現された資料館。彼女の生涯や『ピーターラビットのおはなし』出版の経緯をたどる説明パネル、初版本、原画や直筆の手紙等、世界的にも稀少な資料が展示されています。また英米文学科の学生が毎年刊行している「ビアトリクス・ポター 文献目録」、恒例の企画展等は日本国内だけでなく、海外の研究者にも高い評価を得ています。

埼玉県こども動物自然公園内 TEL: 0493-35-1267

『英語の語源』(渡部昇一著)

語源は、語の表わすイメージの理解に役立ちます。例えば、靈感を表す *inspiration*。この語に含まれる *spir-* の部分が「息」を表します。つまりこの語の語源の意味は（どこか上から）「息」が心や体に入る (*in*) ことなのです。こういった情報が満載の渡部昇一(著)の『英語の語源』(講談社現代新書)、語源に興味がある方におススメです。

ニューオーリンズ (アメリカ・ルイジアナ州)

多くのアメリカ作家が暮らし、ラフカディオ・ハーンも暮らしたことのあるニューオーリンズを紹介しましょう。アメリカ観光ではここがおすすめです。まずは食で、ジャンバラヤ(アメリカ風パエリア)やガンボ・スープ、そして夏でも食べられる大きな牡蠣など素晴らしいです。そしてジャズ。ジャズ発祥の地だけあって、街のいたるところで演奏されています。魅力的な街です。

時間があれば、更にブルース音楽の聖地メンフィスやカントリー音楽の都ナッシュビルをも訪れてみてください。アメリカにおける音楽の3都市です。



ビアトリクス・ポター資料館

教育学科

教育学科で学ぶ「教育学」とは

教育学は大学で初めて学ぶ学問です。もっとも最近では高校の選択授業などで「保育学」などを学ぶ機会がありますが、体系的に教育学を学ぶのは大学が初めてです。

これから大学で教育学を学ぶみなさんは、教育学をどのようにイメージされているでしょうか。「先生の免許をとるための学問?」「いじめをなくすための学問?」「上手な教え方ができるための学問?」でしょうか。

教育学の特徴を考えるため、山に例えてみます。教育学を一つの山と例えると、その裾野がとても広い、というのが第一の特徴です。例えば、様々な障がいをもつ児童や人々を対象とする特別支援教育という学問領域がありますが、その領域は医学や生理学と密接な関係をもっています。そうかと思えば、憲法学や法律学・社会学と密接な関係をもつ教育法学・教育社会学という学問領域もあります。このように教育学は広大な裾野の部分で、自然科学や社会科学のあらゆる分野と隣接する裾野の広い学問なのです。ではなぜ教育学は裾野の広い学問なのか?それは、「人間に関する総合的な学問」だからです。人間の誕生・発達・成長に関わる学問、それが教育学です。

教育学の第二の特徴は、学問的性格にあります。教育学は、学問ですから当然これまでの深い学問的蓄積・理論があります。しかし、教育学を学ぶ際に、常に今の教育はどうなっているのか、という課題が問われます。いいかえると分析的学問なのです。同時に、その分析を通じて「これからの教育はどうあるべきなのか」という実践的に理想を探究する学問でもあるのです。教育学の理論は、常にこの分析と実践・理想探究とによって豊かにされてきましたし、また今後も豊かにされていくものなのです。

教育学の第三の特徴は、人間の発達の可能性と、人間のあらゆる行動原理を明らかにする学問だということです。スイスの動物学者アドルフ・ポルトマン（1897-1982）は『人間はどこまで動物か』という本の中で、動物の中で人間は生理的に早く生まれてくることを説明しました（「生理的早産説」）。周囲の助け無しでは生きられない「弱さ」をもって生まれてくるのですが、この「弱さ」こそ人間の発達可能性を示した特徴です。スポーツ選手や音楽家のような、高い技術を人間がもつことができるのもその「弱さ」がもとになっているからこそです。

大学で「教育学」を学ぶために

(1) 教育学を学ぶために

人間は誕生してから成人するまで（成人して以降も）学び、成長を続けていきます。また、現在の日本では義務教育の就学率が高いだけに、圧倒的多数の国民は学校で学ぶ体験をもっています。それだけに、教育学という学問領域をあえて深く学ぶことなくとも教育や学校について語ることができます。すなわち、教育・学校については誰もが自分の体験に即した専門家になりうるのです。みなさん一人一人、学校で学び教育を受けてきたわけですから、自分なりに教育・学校についての意見をもっていることでしょう。

しかし自分の経験に縛られることなく、客観化する努力も必要です。自分の教育・学校体験は、あくまでも個人に限定されたものであって、自分とは全く異なる教育・学校体験もあるのだということを知ってほしいのです。

自分の経験を土台にしながらか他人の経験を受け止めていくこと、このことが多ければ多いほど、教育を豊かに捉えることができるようになります。

(2) 「何でもみてやろう・やってやろう」

そのためには、「どん欲であること」がなによりも大切です。前ページで、教育学とは「人間に関する総合的な学問」だと書きました。ですからこれから大学で教育学を学ぶためには、先ず「人間に関するどん欲な好奇心」をもって下さい。「何でもみてやろう」というどん欲な関心、これこそが教育学を学ぶ出発点になります。もちろん書物からもたくさんのことを学ぶことができますが、「何でもみてやろう」は、体験することでもあります。「何でもやってやろう」の気持ちで、失敗を恐れずにいろいろな事にチャレンジしてみてください。

語源で確認する「教育」と「学校」

ここで少々見方を変えて、日常的に使用している「教育」と「学校」という言葉の語源を、『漢和辞典』や甲骨文字の研究を参考にして確認してみます。

先ず「教育」という言葉についてです。

英語で、教育を education というのは御存じのとおりです。この言葉は、ラテン語の e + ducare を語源としています。e とは、外へ、という意味で、ducare とは、引き出すという意味です。つまり education の原義は、「外へ引き出すこと・伸ばすこと」になるわけです。

次に漢字の原義をみておきましょう。

「教」の字義は①が原字体で、右側の「攴」には「むちでうつ」、左側には「ならう」という意味があり、この字は「むちでうつて習わせる」という原義になります。



①

「育」の字義は②が原字体です。この字の上部は、母の胎内から出る子という意味で、子を養い育てるという意味が原義です。つまり「教育」の「教」は、むちで打ってならわせること、「育」は子どもが母親の胎内から誕生してくる様子を描いた言葉、となるわけです。

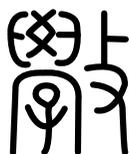


②

次に「学校」という言葉の場合はどうでしょう。

英語で学校は school といいますね。この語源はギリシャ語の *scholē* で「余暇」を意味します。つまり school とは、古代社会における奴隷制を基礎とした自由人の余暇と教養の場 *scholē* から派生しています。

漢字の語源を確認すると、「学」の旧字体である「學」の字義は③が原字体で、甲骨文字の研究によれば、「學」には部族の長が所有する農作物の収納庫、の意味があり、字義には、無知な子どもが教えを受けて無知を開く、という意味があります。「校」には、陣営のしきり、大将とその幕僚の場所、という意味があります。



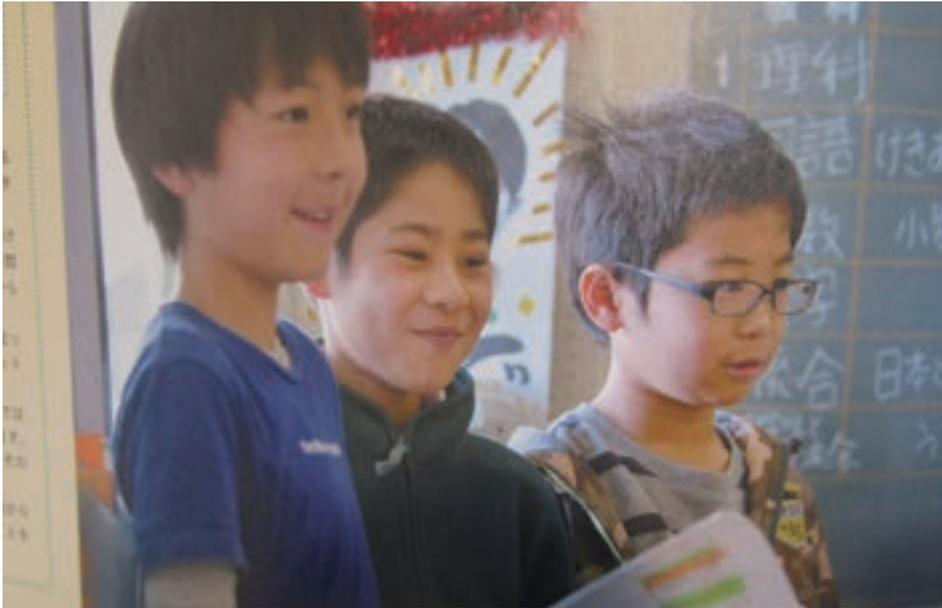
③

つまり「学校」とは、部族の支配階級が専有する神聖な場所で、後継者を育てるために特別に教育・訓練する場所、という意味があったのです。

私たちが日常的に使用している「教育・学校」という言葉・概念が、人類の歴史とともにいかに成立・変化してきたかがわかります。

▶ さまざまな学びの形

写真出典・和光鶴川小学校編『新しい未来を創る力——生の宝物に会う学校』より
(教育学科 荒井明夫)



ホン・モノ・トコロ

山崎隆夫 『希望を生みだす教室』
(旬報社 2009年)

教師は専門家として、目の前で起きていることや子どもたち自身を研究的視点で捉えつつ、幸福な時間が流れる教室を精一杯つくるのがその仕事です。本書を読むたびに、幸せな教室のイメージが触発されるとともに、どうして著者が教壇に立ちながらも冷静な分析をできるのか、その専門的判断はいかにして可能なのか、問いがつきません。教師の仕事进行研究するための入門的名著です。

滋賀大キッズカレッジ手記編集委員会
『ぼく、字が書けない〜だけど、さぼってなんかいない』(文理閣 2010年)

発達障害の専門書は心理学に比べ、教育学のものは多くありません。本書は、専門書『発達障害の教育学』の著者が勤務する大学内に立ち上げた、発達障害の子どもたちを専門に支援する団体の記録です。載録された、発達障害(識字障害)を抱えた親子が綴った率直な思いは胸に刺さります。どんな気持ちで学校や先生と向き合ってきたのか、どんな苦勞がそこにあったのか。3〜5人ほど各クラスにいとと言われる現在、教師に必携の書です。

増山均 『学童保育を哲学する 子どもに必要な生活・遊び・権利保障』
(自治体研究社 2022年)

子どもの居場所が今注目されています。不登校も過去最高を記録するなど、学校がどんな場所であるべきか、真剣に考えなければなりません。その手がかりとして学童保育があります。学童保育は、学校外の子どもの居場所として、高度経済成長の1960年代に全国的に拡大し、1997年に法制化されました。その後急拡大をたどり、今では、学校設置数より多い子どもの居場所になりました。教育学にとって学童保育研究は今や必須なのです。

城丸章夫 『幼児のあそびと仕事』
(草土文化 1981年)

日本の学校の教育課程の特徴はなんといっても自治活動・文化行事をもつ教科外活動の存在にあります。教科外活動論の第一人者である著者が、学校との連続性を意識して保育の仕事・あそびを論じたのが本書です。教育学者が保育を論じた本ですが、いまでも保育の心理学研究においてもたびたび言及されるような、発達論的に重要な論点を提起しています。

パウロ・フレイレ 『被抑圧者の教育学
—50周年記念版』(2018年)

1968年に出版された本書は、教育を、学習者が権威ある教師からただ知識を受け取り、その知識を財の貯蓄のように貯めることとする「銀行型」と、教師と学習者が対等に、対話的關係を通じて世界をより良きものにすべく働きかけるなかで生じる変化をいう「対話の教育」とに分け、対比し、世界の教育改革を今日も創発しつづけています。世界各国で翻訳された教育学の世界的名著です。

寺崎弘明・周禅鴻 『教育の古層〜生を養う』かわさき市民アカデミー講座ブックレット27 (2006年)

教育史研究者である両者の対談を取めた大変読みやすいブックレットですが、コンパクトな見かけによらず、東西の古典を自在に縦横しながら、「教」と「育」の意味を言葉の古層にまでたどり、現代においても忘れてはならない「教育」の意味が提示されています。とにかく近視眼的に目の前の現象に囚われがちな私たちに、文明史の中の人を育てる営みの原点を想起させてくれる一冊です。

書道学科

書道学科で学ぶ「書道学」とは

「書道」と聞いて、まず皆さんは何を思い浮かべるでしょうか。書作品が浮かぶ人、子供の頃やったお習字や書き初め、筆や墨などといった道具を思い浮かべる人もいるでしょう。書道は日本の伝統文化の一つですから、1日外を歩けば筆で書かれた文字を一度は目にするはず。壁に掛けられた作品のみならず、看板や広告チラシ、箸袋にもあるかもしれません。実のところ、よく見渡せば今日でも筆文字や手書き文字は身の回りに溢れています。

そして手書き文字に限らず、今私たちが最も目にするコンピューター等で使う活字も大いに「書道学」に関係しています。



ここに3種の活字を挙げましたが、どの書体が一番古いものかわかるでしょうか。今まさに目にしてある文章の活字の書体は②「明朝体」と呼ばれています。なぜ「明朝体」なのかといえば、文字通り中国の明代から清代にかけて成立したからですが、それ以前にも宋代に成立した①の「宋朝体」も存在しています。そして「宋朝体」が作られた裏には印刷の隆盛があります。当時は木版印刷でしたから、一字一字を手で掘る必要がありました。手書き文字を単純に彫るのはとても時間のかかる作業ですから「宋朝体」という手彫りしやすい直線的な文字が開発されたというわけです。③は「ゴシック体」で、和文で使用されるようになったのはずっと後で、「ゴシック体」という命名自体が明治以降といわれています。なにより私たちはそういった歴史背景のある文字をスマホやパソコン、印刷された活字として現在多く目にしてることになるのです。そしてその活字の背景には当然「書道」と深い関係性があります。

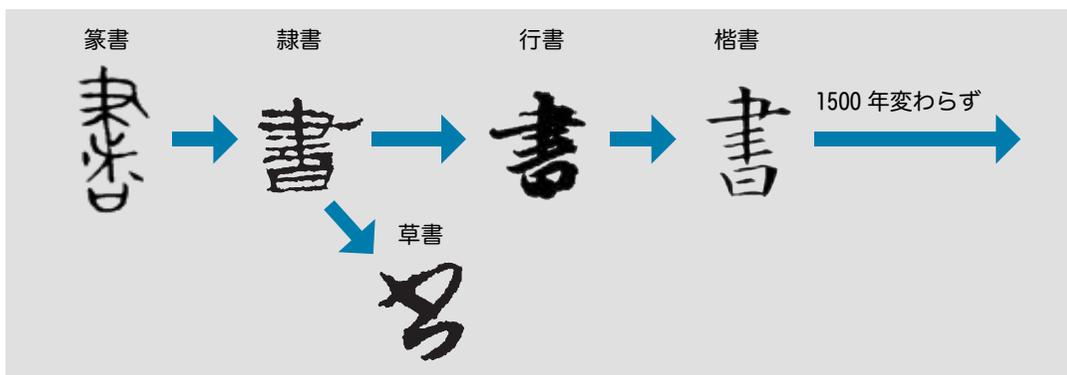
書は「文字を素材とした造形芸術」といわれます。文字は遥か昔から存在していますから、つねに過去のものであるところの形象を媒体としていることとなります。よい書を書くためには文字の造形性から得られることはもちろんのこと、そのバックグラウンドである書の歴史、つまり「書道史」の理解も当然必要なのです。

▶ 古典とその重要性

ではここで実際に古典と呼ばれる過去の名品を見てみましょう。左が「九成宮醴泉銘」、右が「孔子廟堂碑」です。



これらが書かれたのはいずれも西暦 630 年前後です。双方とも大変整った字形で、この頃が楷書の完成期とされています。書体は次頁図のように「篆書」→「隸書」→「草書」→「行書」→「楷書」の順に成立しました。最も古い書体である「篆書」の発生は紀元前 1000 年代、つまり「篆書」から「楷書」の変遷にかかった期間はおよそ 1500 年です。不思議ではないですか？「篆書」から「楷書」までの書体の移り変わり期間と「楷書」が成立してから現在までの期間はほぼ同じです。それだけ楷書という書体が漢字としてより完成されたものであると言えるのかもしれませんが。



とりわけ、例に挙げている「九成宮醴泉銘」や「孔子廟堂碑」は小・中学校で習う「書写」の文字の基となっていますので、老若男女問わず、漢字を使用する全ての人に今も強い影響を与えている書道作品の一つと言えるでしょう。

漢字の歴史は約3000年。現在古典として残る作品は、ありとあらゆる書道作品（古典）が生まれては消ゆく中で、それらの淘汰に耐え抜いた書です。良いものでなければ今に残らないのです。

▶ 読むこと・見ること・書くこと

読むこと（歴史的背景や古典を知ること）、見ること（鑑賞）は書道ではとても大切なことです。この2つは書くこと（表現）へ強く影響します。真の意味で「書を学ぶ」ことはこれらが歯車のように影響しあって初めて成立します。



「九成宮醴泉銘」

- ① 欧陽詢
- ② 557～642年
- ③ 貞観6年
- ④ 陝西省麟遊県
- ⑤ 魏徴
- ⑥ 頭脳明晰、弘文館学士、醜い風貌で小男だったという逸話が残る。



「孔子廟堂碑」

- ① 虞世南
- ② 558～638年
- ③ 貞観2～4年
- ④ 陝西省西安碑林
- ⑤ 本人
- ⑥ もとは煬帝に仕える。弘文館学士、唐・太宗からの信頼が篤い。

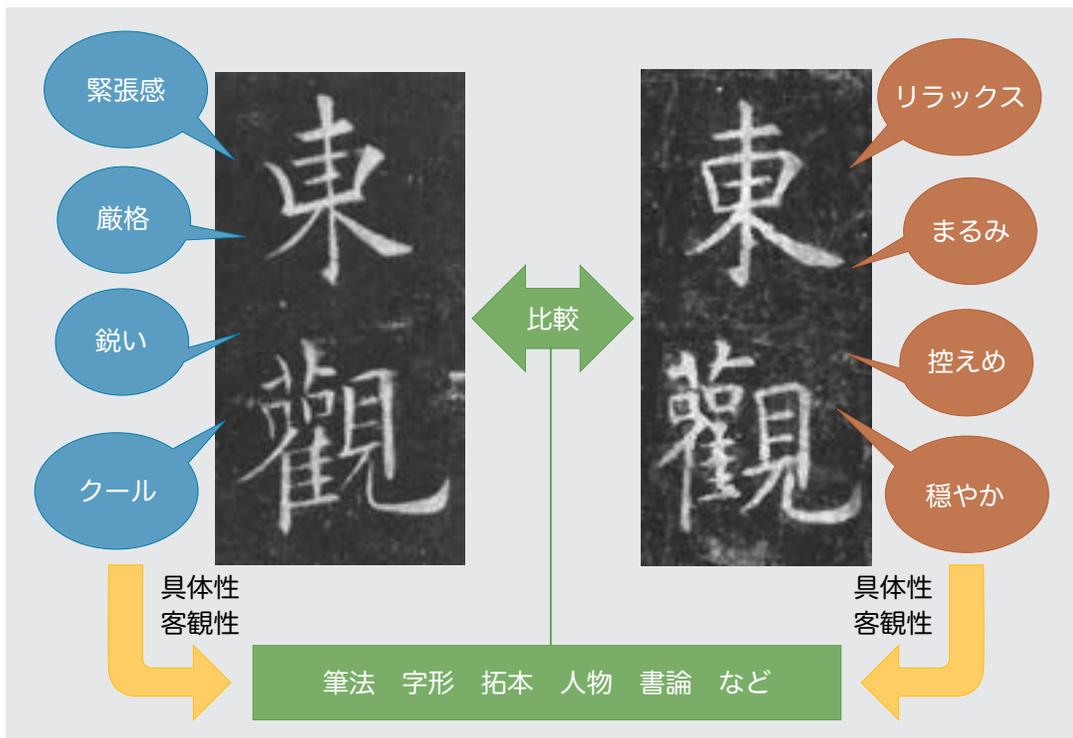
2つの古典の簡単な概要を見ただけでも、興味深いことがいくつかでてきます。極めて生卒年が近いことや、共に弘文館（貴族の学校）の教授を務めていて同僚であったこと、なによりこれほどまでに美しい文字を書く欧陽詢は、醜い風貌で小男だったという逸話が残る点も意外

ではないでしょうか。

実はこの2人の書は古くから尊ばれ、かつ比較対象となってきたことが、後世の多くの書論（書道・書法上の論議をされた書物）によってわかっています。古典の持つ背景（バックグラウンド）はその古典の見方そのものを変える要素となるのです。

ここでもう一度「九成宮醴泉銘」と「孔子廟堂碑」の同じ文字を書いている部分を抽出してみたいと思います。両者を比較してどのように感じるでしょうか。またどんな違いがあるでしょうか。人によって感じ方は異なることもあるでしょう。もちろん、異なっていて良いのです。しかし自分で感じたことを言葉にし、人に伝わるように、そして納得してもらえる説明を考えてみるのが大切です。

- ①作者
- ②生卒年
- ③成立年代
- ④所在地
- ⑤撰文
- ⑥作者の特徴



古典と対峙し「なぜこのような印象を受けるのか」ということをより具体的に考え、鑑賞し、筆法を習得し、表現へ繋げることが書を学ぶ上では重要なのです。

そして1つ1つの古典を真剣に学ぶことで、新たな古典と出会った時、こんな特徴があるのかと気づくことができます。今2つの古典を挙げながら説明しているのは「対比」や「比較」によって理解できることが多いからです。この力は読むこと、見ること、書くことによって無限大に広がっていきます。これを実感できたとき、書道の更なる奥深さを体感できることでしょう。

(書道学科 角田健一)

ホン・モノ・トコロ

大東文化大学書道研究所編 『書道テキスト』全11巻(二玄社)

書道学科創設後まもなく、当時の教員が分担執筆した大学生向けのテキストです。各書体の技法と書道史、書跡文化財学などについて総合的に学ぶことができます。古典や臨書例などが精選され、豊富に掲載されています。

新装版『書道講座』全7冊(二玄社)

昭和30年代に最初の版が刊行され、その後、昭和46年から改訂版が出版されました。さらに平成21年に新装版が刊行されているので、今日でも入手できる定番の技法書です。書体別に歴史や技法が紹介され、大人が本格的な書を自学しようとするときには格好の書籍といえるでしょう。

東京国立博物館

美術を中心とするナショナルミュージアムです。本館や東洋館、法隆寺館では、日本やアジアを中心とする名品をいつでも堪能することができます。滅多に見ることができないような国内外の至宝を集めた大規模な特別展も頻繁に開催されています。周辺には上野動物園、科学博物館や西洋美術館、書道学科の卒業制作展の会場ともなる東京都美術館などもあります。在学中、何度も足を運んでみてください。

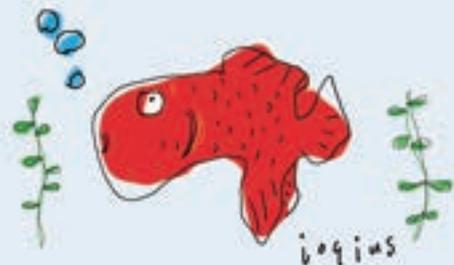
〒110-8712
東京都台東区上野公園13-9
TEL: 03-5777-8600 (ハローダイヤル)

戦後版『書道全集』全28巻(平凡社)

今は絶版となっていますが、全国各地の公立図書館などにはほとんど所蔵されているでしょう。日中、古今の書を網羅しているので、書道史的な側面から知りたいことがあるときにはまずあたってみたい本です。ただし、古い本なので今日では読解に少し苦勞するかもしれません。古書として安価で入手することも可能です。

空海筆「風信帖」教王護国寺(東寺)蔵

国宝。28.8×157.9 cm。日本の真言宗の開祖空海が天台宗の祖最澄に宛てた手紙三通をいいます。第一通目を指すこともあります。本文が「風信雲書」で始まるのでこの名があります。行書体で王羲之の書法の影響も見られ、空海の代表的な遺墨であるとともに日本書道史上の名品でもあります。空海と最澄の交流を示す資料としても重要です。



歴史文化学科

▶ 歴史を学ぶとは？

世界を知る

現在、グローバル化が進むなか、世界をマタにかけて活躍する人が増えています。それにと
もなって、距離が近くなっている「世界」史を知ることが、ますます重要となることでしょう。
ただ、「東洋史」、「西洋史」という別々の分野を貼りあわせただけの古い世界史では、世界規模
の課題をかかえる現代社会の要請に答えることはできません。大東文化大学は、「東西文化の融
合」を建学の理念にうたっていますが、アジアとヨーロッパは文化で昔からつながっていました。
そのシルクロードを通した東西交流史の理解なしに、イスラーム圏をはじめとする現代の主要
な問題を正しく理解することは、不可能といえます。地域ごとに、歴史の大まかな流れを知っ
ておくことはもちろん、世界の他地域との関連・比較も、いつも視野のなかにおいておくべき
なのです。これには、となりの地域との影響関係はもちろん、遠い地域との類比もふくまれます。

現代を疑う

特に、現在の混迷を深めつつある世界にとって、現代社会を自明のものと思いきまず、より
広い視野に立って、自らを見つめなおすことが大切だからです。そのためには、日本をふくむ
現代の文明に決定的な影響を与えた、科学技術を中心とする近代西欧文明の「普遍性」をいっ
たんカッコのなかに入れてみる必要があります。それには、他の文明と比較してみるのがよい
でしょう。それはヨコにひろげてみると、西洋以外の地域の諸文明であり、タテにひろげてみ
ると古代オリエントやギリシア・ローマのような古代文明です。ここで「ヨコ」というのは、
地理的ひろがりのことですが、「タテ」のほうは歴史的ひろがりにあたります。このように、
近現代を相対化するためには、古代や中世という前近代の歴史を知っておく必要があります。
その点、地理的にも西洋から遠く離れ、前近代からの長い歴史をもつ、日本をはじめとする東
アジアの貢献も期待できるのです。

人と出会う

このように、文明どうしを比較するためには、どうしても欠かせないものがあります。それ
は、ある1つの文明と別の文明をむすぶ、なんらかの接点（媒介）です。ところで、時代が異

なっても、人間の性質や営みというものは、そう大きく異なるわけではありません。そこで、人間こそが接点になりうるのです。だからこそ一見、現代的な「まったく新しい」出来事でも、過去に類似したことがある場合が多いのです。過去を武器として活用できるかどうかは、さまざまな判断や決断が必要とされる現代社会において、非常に大切なことだと考えられます。この現代の問題の「解決力としての知」は、世界史のなかで蓄積されてきた宝ではないでしょうか。歴史を学ぶことで、現在に生きるみなさんも、同じような問題のなかをすでに通ってきた、たくさんの人々と「会う」ことができるのです。(歴史文化学科 武藤慎一)

東西文化コース



図1

歴史を学ぶ際に最初に理解しなければならないのは「記録」の問題です。中国でいつから文字が使われだしたかについては、現在よく知られていません。現在使われている漢字の一番古い祖先とされているのが甲骨文字です。この文字は亀甲（亀の甲羅）・獣骨（牛の肩甲骨）に彫刻刀で彫られたものです。甲骨文字は、古代エジプトのヒエログリフ（象形文字）とは異なり、一見して何を写生したものかわかるようなものは一つも見つからず、非常に難解なものです（図1）。

甲骨文字は周代には衰退し、この時代の記録は主に金文（金石文）で記されています。周王は青銅器に臣下に対する命令を刻み、王としての徳・権威を知らしめました。こういう詔勅は現在も数多く遺

されています（図2）。

秦・漢時代では、字を書く材料としては木や竹の細長い札（木簡・簡）が用いられ、有名な司馬遷の『史記』もこのようなものに記されたといわれています。

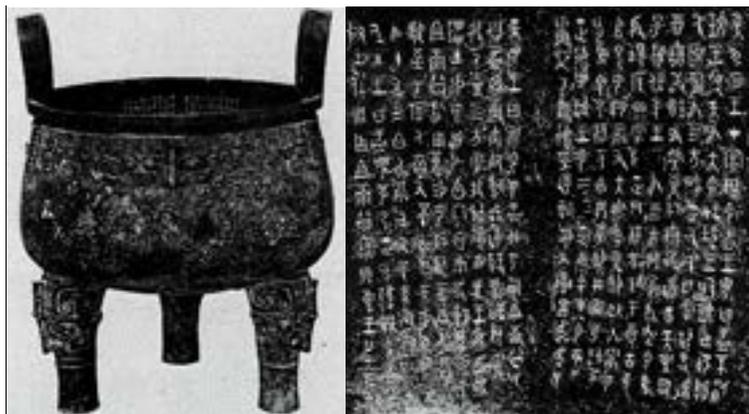


図2

製紙法は、後漢の蔡倫の時代に確立されたといわれ、『三国志』は紙に書かれた最初の王朝の歴史（正史）です。漢字の書体も篆書（秦代）から隸書（漢代）へ、そして楷書（唐代～現在の書体）へと変化していきます。このような記録の変化と

いうものから、歴史の時代の変化を理解してもらいたいと思います。

【参考】林巳奈夫『中国古代の生活史』吉川弘文館（歴史文化学科 故村井信幸）

▶ 日本史コース 謎解きから研究へ

日本史コースでは、様々な史料を扱います。史料は、文字史料だけでなく、絵画や写真なども含みます。例えば、こ

ここに掲げた画像を見てみましょう。これは、京都の古書店が販売していた錦絵です。錦絵といえ



ば、皆さんは、江戸時代の葛飾北斎や歌川広重などの浮世絵（錦絵は浮世絵のなかで、多色摺^{ずり}の木版画を指します）を思い浮かべるでしょう。しかし、この錦絵は明治時代のもので

す。それによると、描いた人物は井上探景、明治時代の浮世絵師として著名で、井上安治^{やすじ}という名でも知られています。出版したのは、日本橋区両国吉川町二番地の松木平吉です。印刷は明治21年6月5日、発行も同年の6月になっています。

これから先は、少し歴史的知識が必要です。場所は、現在の皇居の一角、桜田門の周辺（現日比谷・霞ヶ関一帯）です。ランドマークになるのは、満々たる水をたたえる皇居の内堀と、遠方に見えるモダンな洋風の建物で、これは永田町にあった陸軍参謀本部の建物です。そして、騎馬の人物は、菊の御紋の旗を持ち、馬車を先導しています。馬車の中にいる軍服姿の立派なひげの人物が明治天皇でしょう。錦絵が描かれた明治21年は、大日本帝国憲法が公布される前年ですが、21年中の天皇の行幸（外出）に関わる錦絵なのではないでしょうか？

ところで、錦絵では通常右上部などにタイトルが付されます。この錦絵にはそれがありません。もしかしたら、右側に続く絵が存在していたのでしょうか？ また、見えづらいますが、右上部に墨で書かれた文字があります。誰によるものか分かりませんが、文字は「天長節」（天皇誕生日）と読めます。ちなみに、当時の天長節は11月3日ですので、発行時期と大分ずれがあります。そのためか、文字を抹消した跡が見えます。

一体、この錦絵は何を意図して制作されたのか、どのように伝来してきたのか？ 謎解きのために調べることは多そうです。研究は、時にこのようにして始まるのです。

（歴史文化学科 久住真也）

観光歴史学コース 観光歴史学への旅

一般に、歴史学研究の成果は、論文の発表や学会での口頭発表等を通じて社会に還元されますが、これを観光を通じて社会に還元しようという学問が観光歴史学です。

例えばここに3枚の写真があります。図1の写真は、山形県の最上川にほど近い金山町の中心部から見える山並みの写真ですが、この写真を見て何かを連想しませんか？ この「金山三峰」と呼ばれている山並みは、エジプト、ギザの三大ピラミッド（図2）と瓜二つではないでしょうか？ さて、ここからが観光歴史学です。実は、この「金山三峰」を最初にピラミッドに例えたのは、明治11（1878）年来日し、単身で東北地方を旅したイギリス人女性旅行家のイザベラ・ルーシー・バード（Isabella Lucy Bird：1831～1904）でした（図3）。彼女は、その著書“*Unbeaten Tracks in Japan*”（邦題『日本奥地紀行』）の中で、

「けさ新庄を発ったあと。わたしたちは険しい尾根を超え、たいへん美しく変わった盆地に出ました。そこはピラミッド形の山々が半円形に連なり、しかもその山々が頂上までピラミッド形の杉の木立に覆われているのです。」

（時岡敬子『イザベラ・バードの日本紀行 上』講談社学術文庫、2008年）

と、「金山三峰」をピラミッドに例えています。ピラミッドを見たことのある日本人がほとんどいなかったこの当時、バードは、日本で初めて、いや世界で初めて、「金山三峰」をピラミッドに例えた人物だったのです。このように、何も知らないと見過ごしてしまいかねない山並みも、歴史を学ぶことにより、興味深い歴史の生き証人として観光の対象になってくるのです。実際に、イザベラ・バードが記した『日本奥地紀行』を片手にその足跡をたどる旅は、今、大変な人気を呼んでいます。



図1 山形県・金山三峰（筆者撮影）



図2 エジプト・ギザの三大ピラミッド
(<https://trenjoy.com/all/foreign/africa/egypt/1908/> より)



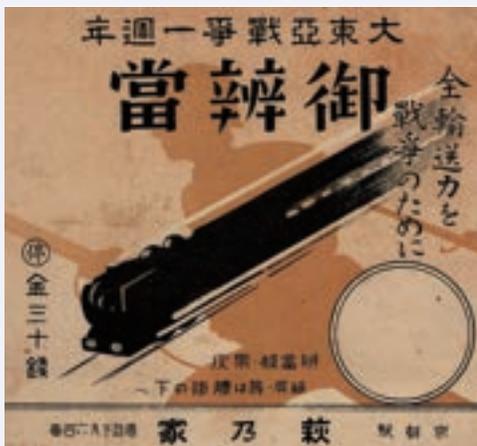
図3 イザベラ・バード肖像
(釜澤克彦『イザベラ・バードを歩く』彩流社より)

（歴史文化学科 宮瀧交二）

ホン・モノ・トコロ

戦時下の駅弁の掛け紙（包装紙）

戦時下の日常生活の様子を、具体的にお話し下さる方々は、だんだんと減ってきています。そのような時こそ「モノ」の出番です。今でも横川駅の「峠の釜めし」や横浜駅の「シウマイ弁当」などの駅弁が人気を集めていますが、戦時下の昭和17（1942）年に京都駅で販売されていた駅弁の掛け紙（包装紙）はこのようなものでした。「大東亜戦争一周年」「全輸送力を戦争のために」といったスローガンが踊り、蒸気機関車の背後には銃剣を持って突撃する兵士のシルエットが描かれています。人々の証言が途絶えても、代わりに「モノ」が、日常生活のすべてが戦争に動員されていた社会の様子を伝えてくれます。歴史学の研究の手掛りとなるのは、決して、古文書や考古資料ばかりではありません。今、私たちの身の回りにある様々な「モノ」も、いつかは21世紀の歴史を知るための貴重な手掛りとなるのです。



森安達也『近代国家とキリスト教』 （平凡社ライブラリー）

「神の復しゅう」とはなにか？ 1990年代を境に、東欧社会主義圏の消滅と宗教の復権によって激変した現代の世界。「いったい、近代とはなんだったのか」という壮大なスケールの問いをかけた現代世界を具体的に、詳しく考察しています。

宮崎市定『科挙—中国の受験地獄—』 （中公新書）

本書には、中国の官吏任用試験・科挙における受験地獄が描かれています。科挙に合格すれば一生エリートコースを保証されるので、身代わり受験、カンニング等が相次ぎました。これは日本の現代社会にも相通じる問題なのです。

皇居（旧江戸城）周辺

日本の近世・近代史を研究するなら、1日をかけてめぐりたい所です。立派な城門・広大な内堀はかつての将軍権力を想像させ、周辺の警視庁・最高裁判所・首相官邸などは、現代の国家権力を感じさせてくれます。江戸・東京という都市の歴史を考えるためにも歩いてみましょう。

■吉見百穴

クマムシという緩速動物は苔のなかに住むという。

緑色の苔は触るとふかふかとして気持ちいい。雨上がりにお日様が当たるとキラキラと光る。

クマムシは、そんな苔のなかでモゾモゾとして生きている。

吉見の百穴に住むクマムシは、幸せである。

夜になると、この吉見の百穴にある苔は、光るのだ。「ヒカリゴケ」といい、国の天然記念物に指定されている。

吉見の百穴は、東松山から鴻巣へ行く中間のところにある。

是非、時間があるときに、ここまで足を伸ばしてみるといい。その光景に、たぶん、驚くだろう。茶色の山肌に古墳時代後期（6～7世紀）の墓穴がなんと二百以上も掘られているのだ。

そして、運がよければ、テレビの撮影現場を見ることができるかもしれない。

ここは仮面ライダーやウルトラマンなどの時代から、悪の秘密結社の基地としてヒーローものの戦いの場としても使われて来ている。

■岩殿観音 正法寺

東松山校舎の8号館脇フェンスの向こうに細い道が延びている。守衛の人に御願いをすれば、その細道への門を開けてくれる。

細道を上がっていくと山路になるから、ハイヒールでは行かない方がいい。それから雨降りや雨上がりも避けた方がいい。

山路を上って下ると、コンクリートのトンネルがある。

トンネルを抜けると、板東三十三か所の十番札所、正法寺である。

なんと、奈良時代、養老2（718）年の開山、本尊の千手観音は室町時代のものとされる。ここには三つの楽しみがある。

ひとつは、6月頃に行くと、紫陽花がとっても綺麗なことである。そして、秋には銀杏が美しい。

三つ目は、本殿観音堂の回廊の下にいる蟻地獄を釣って遊べること。細い木の枝を、蟻地獄が作った巣穴にそろりと差し込むと、蟻地獄が釣れる！

蟻地獄は、ウスバカゲロウの幼虫である。

蟻地獄釣りの後は、できれば、長い長い石段を降りて、昔の参道を歩いてみるといい。夏には蝉の声が汗とともにアスファルトに染みる。

（中国文学科元教授 山口諤司）

レポートの書き方について

■ はじめに

レポートの書き方については、専門分野や課題の内容により様々なスタイルがあります。以下は、あくまでも人文・社会科学分野における一般的なレポートの書き方ですが、個々の先生から皆さんにレポート課題が出された際に、併せて書き方に関する指示がある場合には、もちろんその内容を優先して下さい。

▶ 「感想文」ではないレポート

さて、レポートとは、文章の形式上からは、詩・短歌・俳句（「韻文」）とは異なり、小説や随筆と同じ「散文」に分類される「論説文」です。「論説」とは『広辞苑』によれば、「事物の理非を論じたり説明したりすること」です。後で詳しく述べますが、小学校以来皆さんがなじんできた「感想文」ではないことだけは、まず認識しておいていただきたいと思います。

▶ 新聞を読み「論説文」に慣れよう

その「論説文」ですが、これを書くためには、日頃から「論説文」に親しみ（繰り返し読んで）、その文体に慣れ、構成の立て方等を学んでおくことが大変重要です。そのためには、もちろん論文集や雑誌に掲載されている論文を読むことが一番勉強になるわけですが、1年生の皆さんをはじめとして、なかなかこうした論文には手を出し難いのが実際ではないかと思います。そこで皆さんには、日頃から新聞を読む機会を持つことをお勧めしたいと思います。

朝刊各紙には、様々な問題に対する各新聞社の見解を主張した「社説」が掲載されています。また、各紙の第1面の下部には、例えば朝日新聞の『天声人語』のような短い論説文も掲載されています。この他、新刊書籍を評論した書評面もあります。さらに各紙の夕刊には文化面と呼ばれる紙面もあり、様々な演劇・音楽会等に対する評論も掲載されています。日頃から新聞をよく読む習慣をつけることにより、自然と「論説文」を書く力が養われると思います（新聞には、この他にも皆さんが受けているそれぞれの授業の参考になる記事〔ニュースや論説等〕も数多く掲載されていますので、これらの記事は、皆さんの勉強にきっと役立つことでしょう。また、その時々には社会的な関心を呼んでいる諸問題に関する論説を読んでおくことは、就職活動や教員試験、公務員試験等の準備としても大変有意義です）。

それでは、以下、レポートを書くにあたって特に重要である「構成」と「テクニック」の2点について順に述べていくことにします。

■ レポートの構成について

レポートを書こうとする際には、思い浮かんだことをそのまま書くのではなく、あらかじめ、その構成（目次と考えると結構です）を考えてから書き始めることが大切です。

▶ まずレポートの課題を明確にする

まずレポートの冒頭で（例えば、「はじめに」という項目で）、このレポートがどのような課題に基づいて書かれたものかを明記します。言い換えるならば、先ず冒頭で、そのレポートのテーマを明確にしておくということです。

▶ 研究史を調べ、考察の出発点を確認する

次に、その課題に関するこれまでの研究の成果について調べます。大抵の場合、その課題に対しては、既に様々な人たちが検討を加えていると思います（決して皆さんがその課題のパイオニアではないと思って下さい）。そこで、その課題について、

- a. これまでの研究の歩み
- b. 研究の成果
- c. 残されている課題

等を整理します。この作業によって、レポートを書き始めるに際しての、自らの考察の出発点が明らかになります。研究史とそこから見出した課題の書き方としては、以下のような例文を参考にして下さい。

「今までの研究で△△までは明らかになっているが、○○の問題には言及されていないので、今回このレポートで検討してみたい」

「今までこの問題については、○○氏が△△と述べているが、私は○○氏とはやや異なる見解を示してみたい」

▶ 自身の考察（レポートの核心）を書く

先にも書きましたが、レポートは「論説文」であり、「感想文」ではありません。研究史をふまえた上で、いよいよ皆さん自身の「感想」ではなく「見解」を記して下さい。その際には「見解」の根拠となる資料や文献を参照しながら（使用した資料や文献は、必ず「注（註）」に明記します。その書き方は後述します）、十分にそして丁寧に論旨を展開して下さい。

▶ 最後に考察内容をまとめ、併せて残された課題を明記する

最後に（例えば「まとめ」という項目で）、このレポートで自分が指摘したことを整理して要約します。その後で、今後に残された課題を明記しておきます。頑張って書いたレポートだと思いますが、与えられた課題に対して 100% 満足のいく内容にはなることは稀だと思います。むしろ、レポートを書いたことによって、次々と新たな疑問や課題が見つかるはずです。今後に残された課題を明らかにしておくことも、学問の発展のためには、重要です。

そして全文を書き終わったら、必ずもう一度読み返して、細かい点などをよく確認して、より良い文章に仕上げして下さい（この作業を「推敲 = すいこう」と言います）。一度、声に出して読んでみるのもよいでしょう（彼氏、彼女にお願いしてみても?）。

■ レポート執筆に際しての留意点について（テクニック）

レポートや論文を書くにあたっては、いくつかの「約束事」があります。最初に述べたように、日頃から「論説文」に親しみ（繰り返し読んで）、その文体に慣れ、構成の立て方等を学んでお

けば、そう難しいことではないのですが、以下にその「約束事」をまとめておきます。

▶ 自らの見解と、他者の見解を明確に区別する

レポートは、先にも述べましたが「感想文」ではありません。必ず他者の見解（先行研究）を参照しながら考察します。その際には、自らの見解と、他者の見解を明確に区別して記します。自らの見解は1人称で記します。他者の見解をそのまま書き写す場合には、

〇〇氏は「□□は△△である」と指摘しており、

とか、

「□□は△△である」という〇〇氏の見解がある。

といった具合に「」を用いて引用します。ただし、その内容を自分で要約して引用する場合には、「」は不要です。そして、このどちらの場合にも、引用部分には注（註）番号を付し、レポートの末尾に注（註）としてまとめて出典を明記します（本項の最後にある例文を参照して下さい）。なお、引用に際しては、

- a. レポートの本文の方が、引用部分よりも主（メイン）となること
- b. 必要最低限の引用であること
- c. 出典を明記すること

の3点が著作権法にその条件として定められています。

▶ 禁じられている「剽窃」と「盗用」

もし、書籍やインターネットのHP（ホームページ）にある他者の見解を、このように明記せずに、あたかも自分の見解のようにレポートに書いてしまうと、これは「剽窃」または「盗用」といって、著作権法が保護している他者の著作権を侵害したことになります。『広辞苑』で見ますと、「剽窃」については「他人の詩歌・文章などの文句または説をぬすみ取って、自分のものとして発表すること」と記され、「盗用」については「ぬすんで使用すること」と記されています。もしこのようなことを実行してしまうと（いわゆる「コピペ」！）、著作権法に抵触したことになるてしまい、もし仮に著作権者、すなわち書籍やインターネットのHPに、オリジナルの文章を書いた人から訴えられた場合、法廷でその是非を争わなければならず、敗訴した場合（有罪が確定した場合）には、罰金が課せらる可能性があります。

▶ 書籍・論文・HPの引用法

では、書籍・論文・HPの引用法を紹介します。

書籍を引用する場合には、

- ・著者『書名』出版社、初版刊行年

を明記し、雑誌または書籍に掲載された論文を引用する場合には、

- ・著者「論文名」『雑誌名（書籍名）』雑誌号数（書籍の出版社）、発行年

を明記します（これも本項の最後にある例文を参照して下さい）。

また、インターネットのHP（ホームページ）から引用する場合には、必ずサイト名とアドレスを明記します。（これも本項の最後にある例文を参照して下さい）。

▶ 安易にインターネット（HP）を引用しない!!!

ところで、インターネットから「手軽に」得られる情報は数多くあります。そのため、これらを利用しようとする際には、そのHPの開設主体をよく調べて判断する必要があります。公的機関が開設するHPは比較的信頼出来ますが、匿名のものなどは利用すべきではありません。掲載内容を問い合わせ確認することも出来ません（実は、あなたの家の近所のおじさんが、定年後に趣味で開いているHPだったりして…）。また、皆さんがよく使用するインターネット百科事典「Wikipedia」は、利用者の書き込みが出来るため、誤りが多々あることが知られています。そのため、「Wikipedia」を読んで、調べようとしている特定の語句の内容について「アタリ」をつける（その概要を知る）ことは良いのですが、この「Wikipedia」を注（註）に掲げることは避けて下さい。また、それぞれのHPは、いつ内容変更や閉鎖があるかもわからないという点において、一度刊行されると回収することが出来ない書籍（本）に比べると、ある意味無責任であると述べても過言ではありません。

▶ 信頼度の高い書籍（本）で調べよう

その内容が様々なHPに比べて、一度刊行されるといつまでも図書館等で読むことが出来る書籍（本）の内容は、ある程度、信頼出来ます。書籍（本）は、それぞれの出版社がその内容に責任を持って刊行しています。図書館に足を運ぶことを面倒くさいと考えず、日本の大学の中でも屈指の蔵書を誇る大東文化大学の図書館をフルに活用して下さい。

要するに、書籍、雑誌論文、HPのどれを引用するにしても、レポートの読者（第三者）が、後日、書かれた内容を再検証することが出来るように、情報を開示しておくということが、レポート執筆者の最低限のマナーです。

■ レポート本文の参考例

以上述べてきた点をふまえて、仮に「日本における鉛筆の歴史」と題するレポート本文の参考例を示してみたいと思います。注（註）の付け方・書き方等の参考にして下さい。

（例）「日本における鉛筆の歴史」

我が国における鉛筆の歴史は、静岡県静岡市の久能山東照宮に保存されている、徳川家康（1542～1616）が江戸時代の初期にオランダ人から贈られたという鉛筆や、仙台の伊達政宗（1567～1636）の墓所から出土した鉛筆に始まるという。⁽¹⁾

その後、明治時代に入り、本格的に鉛筆の輸入が始まったようであるが、最初に輸入された鉛筆としては、1761年に鉛筆の製造を開始し、初めて断面六角形の鉛筆を作ったことでも知られている、ドイツのファーバー・カステル社⁽²⁾の製品であった可能性が高いと思われる。

現時点で知られている我国の鉛筆の歴史に関する情報は上記の通りであるが、今後の近世大名墓の発掘調査の進展によっては、新たな事例が追加される可能性もあると考えられる。

注（1）中央公論編集部『文房具の研究』中公文庫、1996年。

（2）H.P.「FABER-CASTELL」。http://www.nshcgjip/brands/faber-castell/home.htm

■ おわりに

入学後、皆さんが所属する学部・学科の専門科目、そして全学共通科目において、これから卒業までに、たくさんのレポートを書くことと思います。レポートは、書けば書くほど上手になること間違いなしです。どうか頑張ってください。そして最後にもう一つ。よい文章を書くためには、よい文章をたくさん読むに限ります。ぜひ、たくさんの本を読んでよい文章スタイルや、文章表現を自然と身につけて下さい。

(歴史文化学科 宮瀧交二)



資料・文献のさがし方

■ はじめに

レポートや卒業論文などの作成、また授業での提出物の作成には、対象に関する調査・研究が欠かせません。必要な情報を収集・整理・活用することは、学生のみならず社会人になってからも、必ず要求される能力です。それを大学生のうちにぜひとも身につけてください。

■ 図書館の利用

授業で、あるテーマについて調査することになったら、まずは図書館に行きましょう。大東文化大学図書館では、「蔵書検索 (OPAC)」で書籍・雑誌の検索ができます。利用方法は「図書館利用の手引き」をご覧ください。

また「オンラインデータベース」は主に学内から接続できます。学内設置のPCやスマートフォンなどからできます。「JapanKnowledge+国史大辞典」は『日本国語大辞典』や『日本大百科全書』など、各種の辞書・事典・叢書などから必要な情報を検索するシステムです。「日経テレコン21」は「日本経済新聞」を主とした新聞記事の検索システム。「朝日新聞クロスサーチ」は「朝日新聞」を中心に新聞記事の検索ができます。「ヨミダス」は読売新聞、「毎索」は毎日新聞を中心とした検索システムです。利用する上で、わからない点があったら遠慮なく、図書館で働いている人 (図書館司書といいます) に聞いてみましょう。

本学の図書館に目指す資料がなければ、他大学の図書館から取り寄せるが、他の図書館まで出張して見に行く、ということになります。自分にとって都合の良い方法をとみましょう。他の大学図書館で蔵書や資料を閲覧する場合は、「紹介状」が必要になります。大東文化大学図書館の司書の方をお願いして、作成してもらいましょう。

インターネット上で資料・書籍を閲覧する、というケースも増えてきました。中でも充実しているのは国立国会図書館です。「日本全国書誌」「NDL-OPAC」「雑誌記事検索」「全国新聞総合目録データベース」などの検索システムがあります。利用してみましょう。専門図書館・研究機関・研究に有益なウェブサイトについては、下記に挙げた斎藤孝・西岡達裕『学术论文の技法 (新訂版)』が詳しいです。

■ 新聞記事の探索

最新の情報に触れるという点では、「紙」の新聞はいまだに重要です。新聞を定期購入していない人は、図書館で目を通しましょう。その上で気になる記事、これは重要だという記事があったら切り抜いてファイルしておきましょう (図書館の新聞はコピーしましょう。当日のものは禁止)。日付と新聞名を記載するのを忘れずに。

新聞の利用・整理法については、池上彰・佐藤優『僕らが毎日やっている最強の読み方』が

参考になります。新聞記事は、社によってバイアスがかかっているので、二紙を読み比べよ、などということは、学生には意外と知られていません。A紙では大きく載っている記事が、B紙ではまったく載っていないということはよくあることです。「ビジネスパーソン」向けですが、学生が読んでも有益なことが書かれています。

■「リアル書店」の利用

頻繁に使う書籍は、購入したほうが効率的です。購入した本は、傍線や書き込みなどして「汚して」使しましょう。現在はネット通販を利用する人が増えてきましたが、皆さんは、ぜひ「リアル書籍」に行っていただきたいと思います。研究テーマに関係ありそうな書物を実際に手にとって、中身を検討することは有意義なことです。

皆さんはせっかく東京にいるのですから、都内の大規模書店に出かけてほしいのです。大型書店としておすすめするのは、

- ・ジュンク堂書店 池袋本店
- ・紀伊國屋書店 新宿本店
- ・三省堂書店 池袋本店
- ・三省堂書店 神保町本店（小川町仮店舗）
- ・丸善 丸の内店
- ・東京堂書店 神田神保町店

などです。皆さんの近所の本屋さんもぜひ大切に使ってください。

それから、「神田神保町」の古書店街は日本一、いやおそらく世界一の古書店街だと言われています。これを利用しない手はありません（「神田神保町オフィシャルサイト」があります。検索してみてください）。一軒一軒が専門店です。その店主は（かなりとっつきにくいですが）その道のスペシャリストです。わからないことがあったら聞いてみてはいかがでしょうか。

■ Web 情報の利用と注意点

今や、インターネットは各種の情報にアクセスする必須のアイテムとなりました。レポート・論文で引用する機会も多いかと思いますが、まずは素性の確かな、公式的なサイトを利用すべきです。

「公式的」というのは官公庁のウェブサイト、企業本社のホームページ、名前と立場（所属など）を明かして運営している個人のホームページなどです。匿名のウェブサイトは、信憑性・信用性に問題があるので、おすすめしません（そうでない場合もありますが）。

また、ウェブサイトの記事を、出典を明記しないで引用することを「盗用・剽窃」といいます。これは決して許されることではありません。絶対しないように。

ネット百科事典として有名なのは「ウィキペディア (Wikipedia)」ですが、しばしば間違いの記載がありますし、みんなが参照するのでありきたりのレポートになってしまいます。なるべく使用しないようにしましょう。

すこし前まで「ウィキペディア」の「丑の刻参り」の項目には、〈この呪法は屋台本平家物語に載っている〉という意味の記載がありました（現在はさすがに修正されています）。それを鵜呑みにして「呪術代行」「呪い代行」「橋姫伝説の真実」といったたぐいのサイトには、「屋台本平家物語」の文字が（いまでも）堂々と載っております。サイト作成者は得意げに載せているようですが、もちろん「屋代本平家物語」が正しいのです。ろくに調べもせずに、間違ったサイトに安易に頼って悦に入る……。実に滑稽で悲惨です。

皆さんはぜひとも良質な情報を入手して、よいレポートを書いていただきたいと思います。

参考文献

斎藤孝・西岡達裕『学术论文の技法（新訂版）』（日本エディタースクール出版部、2005年）

小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書、2009年）

池上彰・佐藤優『僕らが毎日やっている最強の読み方』（東洋経済新報社、2016年）

（日本文学科 山口敦史）



博物館に行こう

■ 博物館はいつも

子どものころ、家族と一緒に動物園や水族館に行った思い出がある人、ずいぶんいるのではないのでしょうか。小学生や中学生になって、近くの郷土博物館に地域の歴史や文化について調べるために足を運んだこと、ありませんか。旅先で美術館や資料館に立ち寄った人も多いでしょう。今日、ライフサイクルに合わせてさまざまな博物館を利用することが一般化しています。

美術館も、歴史資料館も、水族館や動物園も大きく分類すると博物館です。すべてに共通するのは本物が見られるということ。遠く離れた国のこと、はるか昔の人類の営為、動植物の進化、さらには深海や宇宙のことまで、博物館には多様なモノと、それにまつわる情報が詰まっています。

博物館には人それぞれの楽しみ方があります。学びの一環として活用することはもちろんですが、時には少し背伸びをして、時には気楽にボーっと、出かけてみましょう。

■ まずは近くから

高坂駅からのスクールバスが東松山キャンパスに到着する少し手前に動物園があります。埼玉県こども動物自然公園です。園内では、コアラやキリンをはじめとする200種あまりの動物を見ることができます。また、モルモットやポニーなど、身近な動物と触れ合うこともできます。

園内には、大東文化大学ピアトリクス・ポター資料館もあります。ピーターラビットで知られるポターの愛した、英国、ヒルトップ農場の建物を再現した資料館です。ピアトリクス・ポターに関する貴重な資料はもちろん、さまざまな絵本を実際に手にとって見ることができます。

さらに自然公園に隣接して埼玉県平和資料館があります。無料で入館できるこの資料館では、昭和の戦争期の資料が紹介され、映画や疑似体験などによって近代史に向き合うことができます。

少し離れますが、埼玉県行田市には国宝・金錯銘鉄剣が出土した稲荷山古墳を含む埼玉古墳群があります。現在はさきたま古墳公園として整備され、広々とした園内には埼玉県立さきたま史跡の博物館があります。鉄剣と古墳とを合わせ見ると、古代史を一層身近に感じるはずです。

板橋校舎の近くにも魅力的な博物館があります。成増駅からバスで5分ほど、都営三田線の西高島平駅から徒歩で10分ちょっと、大学から自転車で20分ほどのところに赤塚溜池公園があります。この公園内にあるのが板橋区立美術館と板橋区立郷土資料館です。板橋区立美術館は江戸の絵画や板橋周辺の近現代美術、さらに絵本の展示などを得意とする美術館で、いつも凝った展覧会に出会うことができます。郷土資料館では板橋の歴史や文化を知ることができます。このほか、上板橋駅の近くには板橋区立教育科学館があり、日常生活の中の科学のほか恐竜の化石なども見られます。プラネタリウムも魅力です。

池袋に出ると、サンシャインシティにサンシャイン水族館とコニカミノルタプラネタリウム、古代オ

リエント博物館があります。いずれも都市の博物館として濃密な展示を見ることができます。

■ 上野の森へ

上野には、大きな博物館が集まっています。

JR 上野駅の公園口を出ると、すぐに上野恩賜公園です。その中心となるのは東京国立博物館です。美術を中心とするナショナルミュージアムで、日本やアジアを中心とする名品をいつでも堪能することができます。国内外の至宝を集めた大規模な特別展も頻りに開催されています。公園には、このほかに恩賜上野動物園、国立科学博物館、東京都美術館、国立西洋美術館、上野の森美術館、東京芸術大学大学美術館があり、一帯で大きな総合博物館を形成しています。

さらに、それぞれの建築も見所です。東京国立博物館本館は渡辺仁、表慶館は片山東熊、西洋美術館はフランス人建築家ル・コルビジェの設計。科学博物館の脇には、原寸大のシロナガスクジラの模型も見られます。文化の集積地として、何度も足を運びたくなる施設が目白押しです。



国立科学博物館

■ 個人コレクションを楽しむ

都内を中心に、経済界で活躍した人物が蒐集した個人コレクションを核とする美術館が数多くあります。五島美術館や根津美術館、出光美術館、三井記念美術館、山種美術館、アーティゾン美術館、静嘉堂文庫美術館、埼玉では遠山記念館などが挙げられます。

近代の日本経済を支えた人物たちの多くが美術に関心を抱き、コレクションを形成しました。個人コレクションには、それぞれにエピソードがあり、蒐集した人物の審美眼が垣間見られます。

これらの美術館は、いずれかといえば少し大人びた雰囲気、敷居が高く感じられるかもしれませんが、落ち着いた雰囲気のなかでじっくりと美術を堪能することができます。

■ お気に入りたくさん

多種多様、自然や人のいとなみのあらゆる事柄が博物館には集まっています。これから、さまざまな場面で博物館に出かける機会があるだろうと思います。博物館であることを特別に意識する必要もないのかもしれませんが。博物館の周辺にはさまざまな観光スポットがあることも少なくないですし、多くの館にはミュージアムショップやレストランが用意されています。それぞれの感性に合わせて、多角的に活用することができるでしょう。東京、埼玉は本当に博物館の多い地域です。大学生のあいだに、是非お気に入りの館をたくさん見つけてください。

(書道学科 高橋利郎)

留学に挑戦しよう！

留学に必要なもの。それは、「知らないところに行く勇気」です。日本語を話していれば何とかやっつけていける日本での大学生活。そこから一歩踏み出して、海外の大学に行く。これまで自分が「外国語」として勉強していた言葉を使って授業を受け、友達を作り、大学生活を送る。そして、その「外国語」が自分の第二の「母語」になり、外国だったその国が自分の第二の母国となる。それが留学です。もちろん留学は、お金がかかることです。二の足を踏んでしまうのは当然です。しかしこれらのリスクを考慮しても、留学のメリットは絶大です。新型コロナウイルスの世界的感染拡大のため、留学が以前と全く同じようにはできなくなっていますが、今少しずつ海外渡航が可能になりつつあります。少しでも留学に関心のある方、ぜひチャレンジしてみてください。

■ 最初の一步……国際交流センターに行く(東松山校舎 4 号館・板橋校舎 1 号館 2 階)

まず国際交流センターに足を運びましょう。スタッフの方に「海外での留学に興味があるのですか…」と話しかけてみましょう。経験豊富なスタッフの方が留学について具体的な情報を教え、あなたの夢を現実に近づける手助けをさせていただきます。

■ 留学の形を考える

まず留学期間には長期(約一年間)と短期(約一か月)のものがあります。

長期留学の場合、大東に在籍した状態で(つまり留学期間中も大東に学費を納めて)留学する形と、休学して留学する形があります。前者の場合、現地で取得した単位が大東の単位として振替られるのです。この場合、大東を4年間で卒業することが可能になります。後者の場合、単位振替がなく、留学期間を入れて少なくとも5年間で大東を卒業することになります。

短期留学の場合、夏季休暇および春期休暇中に、3～4週間海外の大学で語学研修を行う短期研修があります。オンラインで受講する短期留学もあります。

■ 最後に…語学力を磨く

海外留学は、皆さんの外国語学習の延長線上にあります。英語圏でも中国語圏でも、留学を希望している国の言語をマスターしておく必要があります。留学を希望する方は、その準備として、今皆さんが受けている外国語の授業で課されている量以上の勉強をし、自分自身で語学力を磨かなくてはなりません。

自分の目標とする言語で書かれたもの、あまり長過ぎず、自分の力で十分読めるものを、少しずつでも継続的に読みましょう。「継続は力なり」「水滴石穿」「Many a little makes a mickle.」です。今日の一步が有意義な留学への道程につながっていきます。

(英米文学科 小池剛史)

映画を観よう

いま映画世界は激変中、デジタル撮影とCGの後処理がフィルムを駆逐する勢いで、映画づくりの現場ではハードの面の進化に追いつけない戸惑いがみられます。映画を観る環境も一変しました。誰でもビデオやDVDで映像を所有することができ、ネットで瞬時に映画をとりだすことも可能となりました。映画誕生を祝った1995年、少なくとも20数年前までは、映画は暗闇で多くの人々が同時に観るもので、映画館は猥雑でちょっぴり危険な匂いがする空間でした。

そのころ「映画を観よう」といえば、即「映画館に行こう」を意味し、大学の先生たちは映画なんか観ないで本を読めと忠告したものです。いまはポップコーンのカップ片手にデート気分のシネコンで観る学生に意見する大人もいませんね。一方「映画学者」は、大学の研究室でテキストや情報としてDVDと睨めっこして、難解な現代思想風の映画論文を量産しているでしょう。かつて文芸評論家平野謙が、小説の面白さは「我を忘れる」か、「身につまされる」かだ、と言ったそうです。これは映画にもあてはまると、私は思います。普通の人びとにとって映画は、一期一会、二度と観ることのできない夢でもあったのです。

それではいま映画を観るのはどうするか。犬だって歩けば棒に当る——なんでもいい、面白そうなDVDを手にとる、時代や国境を超えて呼びかけてくるものがあれば、他人の評判など気にせず、映画との会話を楽しんでみましょう。まずは初めから終わりまで流れの通りを見る。わからないところや、どうにも気になるセリフがあったら、もどってみましょう。そのうちに読書に例えれば、行間から呼びかけるように、画面の隅々からテーマが現れてくる、監督やカメラマンたちが考えもしなかったことを読み取ることもできるはずです。

さらに興味が沸いたら、街に足をのばしてみましょう。京橋の東京国立近代美術館フィルムセンター www.momat.go.jp/fc/ では、古今東西の映画が上映され、映画関係の展示、映画資料の図書室が常設されています。また池袋の新文芸坐、神保町シアター、阿佐ヶ谷ラピュタ、渋谷シネマヴェーラなどでは、過去の名画が上映されています。そこに行けば、各種の上映会の情報を得ることもできます。本来、映画はスクリーンで観るためにつくられているのです。

文学や絵画、演劇には人類始まって以来の歴史があるけれど、映画はたかだか120年、まだまだ未開の「芸術」です。契機をつかんで自分なりの観方を獲得すれば、すぐには役にたつことはないでしょうが、映画は失意のときの友、人生の岐路にあたっての指南役、退屈しのぎの危険な誘惑者……として、人生を豊かにしてくれるはずです。

1927年、はじめてのトーキー（発声映画）『ジャズ・シンガー』で、固唾をのんで待っていた観客の耳に響いた世界最初のセリフは、You ain't heard nothin'yet！ でした。日本語字幕では「お楽しみはこれからだ」と訳されています。そう、たくさん観てきたあなたにも、あまり観なかったあなたにも、映画の楽しみは待っています。

(日本文学科元教授 小野民樹)

舞台を見よう

■ 何でも体験してみよう

新しい物事に挑戦するのに、学生時代は良い時期です。「初めてなので教えてください」が言いやすいし、時間とお金はある程度自由に使える。だからスポーツでもお稽古事でも、気になるものは何でも体験してみましょう。それが生涯の趣味になるとしたら、早くに始めることでそのぶん長く楽しめるし、やってみてピンと来なければ、切り替えて次に行けます。「今は〇〇が忙しい」「稼げるようになってから」「自分にはまだ早い」などと先送りにしていると、自由な時間や経済力のある「ふさわしい」立場になった頃には、体力や感受性が目減りしているかもしれません。何より、自分で自分を「ふさわしくない」と決めつけるなんて悲しいことです。

というわけで、自分のアンテナに引っかかったものは何でも試してみれば良いのですが、ここでは「舞台を見よう」という題で書きます。これは「演劇研究者からの勧め」ではなく「一演劇ファンとしてのお誘い」です。

■ 何はともあれ、まずは劇場へ

東京とその近郊には、数万人収容のスタジアムやアリーナから、客席数4桁台のコンサートホールや大劇場、数百人規模の中劇場や寄席、演者の息遣いまで聞こえる小劇場やライブハウスや大衆演劇場まで、大小さまざまな会場があり、日夜さまざまなパフォーマンスが提供されています。半年前に高額のチケットを予約しなくてはならないような公演がある一方で、当日ふらっと立ち寄れるものもあります。ともあれ、現場に足を運ばないことには体験はできません。気になるジャンルを見つけたら、「初心者向けの演目」や「当代最高の演者」などにこだわらず、まずは手近な機会に公演を見てみましょう。

若年層向けの割引制度があり、企画にも大ハズレの少ない劇場／興行団体として、国立劇場（歌舞伎、文楽）、国立能楽堂、国立演芸場、新国立劇場（オペラ、バレエ、演劇）、東京芸術劇場（クラシック音楽、演劇、ダンス）、劇団四季（ミュージカル、演劇）などを挙げておきます。特徴ある割引制度としてぜひ紹介したいのが、新国立劇場のZ席と歌舞伎座の一幕見席。いずれも価格は2,000円以下です。どちらも最上階の座席で、Z席は舞台の一部しか見えない、一幕見席は花道が見えない上に、公演の一部分（30分～1時間程度）しか見られない、といった制約はありますが、ちょっと見てみたいという場合にお勧めできる選択肢のひとつです。公演の当日や前日に売り出されるので、全席完売の人気公演にもぐり込む最後の手段としても使えます。

チケットの取り方は？ 当日何を着ていけば良いの？ 分からないことを自分で調べると

ころから「予習」が始まり、公演への期待が高まっていきます。会場で「私、場違いかも」などと萎縮する必要はありません。古参のファンは案外、初めて劇場に来た風の若い人には親切なもの。主催者発信の注意事項や公共の場での一般的なマナーを守り、あとは周囲の振る舞いに合わせておきます。

■ 自分の感性を信じ、他人の感想も尊重する

^{なま}生のパフォーマンスは一期一会。同じ演者でも同じ演目でも、その日のその演技は一度きりのものです。さらに、受け手の心身の状態や座席位置でも、受ける印象は変わります。だから、あなたがあの日あの会場で感じたことは、誰にも否定できません。世間の評判や批評家の劇評と違っていても、自分の感想は大切にしましょう。

もともと、他人の感想を無視しろということでもありません。同じ舞台を見た人と感想を言い合ったり、劇評を読んだりして、自分とは違った見方を知ること、観劇の醍醐味の一つです。

(日本文学科 大西由紀)



文学部のキャリア

■「働く」とはということか

大半の学生は、社会人として新たな場を得て卒業していきます。

働くことの第一の目的は、生活の糧を得ることでしょう。衣食住を基本として、健康で精神的に豊かな暮らしを送るためのお金を、安定して得る手段として働く必要があります。さらに、仕事を通して社会とつながりを持ち、自分が社会の一部分を担っていることを実感することによって、達成感を得ることができます。職業を通して多くの人びとと多様な関係を構築していくことによって、人間的に成長し、生活にも張り合いが生まれます。

大学生活を通して、「働く」ということが自分にとってどういうことなのか、まずは考えてみるのが大切です。

大学における学びが地力を形成することはもちろんですが、同時に、働く場についての知識を広げ、深めて、社会人として働く自分の可能性を具体的な行動に結びつけていってください。

■まずはキャリアセンターへ

東松山校舎管理棟2階と、板橋校舎1号館2階にそれぞれキャリアセンターがあります。大学では、主に、このキャリアセンターで就職支援活動を展開しています。就職支援というと、3年生や4年生に対する就職先の紹介を真っ先に思い浮かべるかもしれませんが、実は、1年次から活用できるさまざまなプログラムが用意されています。

就職に関連する書類の作成方法、面接などのマナー講座、公務員や教員志望者向けの試験対策講座、各種の就職活動ガイダンス、論作文の添削、模擬試験、企業説明会の開催、インターンシップ先の紹介など、就職に関することなら何でも、キャリアセンターに出向いて相談してみましょう。

もちろん、キャリアセンターには多くの企業から求人の申込みがあります。キャリアセンターのスタッフのアドバイスを得ながら、自分の将来にじっくりと向き合ってみてください。

■インターンシップ

インターンシップは、必ずしも就職活動のためだけに行うものではありません。就業体験を通して社会の構造を知り、企業などで必要とされる能力や技能などを自覚することによって、新たな学習課題を発見することができます。普段触れる機会が少ない社会人と職場を共にすることによって、働くことに対する意識が高まるに違いありません。

インターンの募集はキャリアセンターで行っているほか、マイナビやリクナビなどの就職支援サイトでも紹介しています。また、多くの企業や、市役所や県庁といった公官庁などでも窓口を設けて直接受け入れています。3年生がインターンの中心ですが、企業によっては1年生から受け入れ可能

にしている場合もあります。また、興味のある業界や企業、職種をいくつか体験することも可能です。

インターンを経験することは、実際の就職活動にも役立ちます。

まず、それぞれが希望する職場を具体的にイメージすることができます。それによって、実際に就職した際 mismatches の可能性が少なくなると考えられます。さらに、社会人に必要なさまざまなマナーが身につきます。職場を体験して得たものは、就職活動に直面した時に必ず役に立ちます。

近年では、インターンシップに参加した学生に対して、積極的に就職に関する情報を提供している企業も見られます。インターンは、原則として就職活動に直結するものではありません。しかし、企業の採用担当者からすれば、自分の会社に興味を抱いて、インターンに参加した学生に採用選考に参加してもらいたいと思うのも自然なことでしょう。

■ 自らを知り、配慮を身につける

就職活動では、求人情報とその企業などに関する情報の獲得が重要であることはもちろんですが、一番はじめに必要なのは自分を見つめ直すことです。

自分はどのようなことに興味があるのか、どのような仕事をしたいのか、卒業後、どこでどのように暮らしていきたいのか。これまでの自分を振り返り、これからのことについて前向きに、真剣に考えてみましょう。就職活動につきもののエントリーシートや履歴書の作成には、長所や特技、不足している点なども含めた自己分析が必要です。しっかりとした中心軸があれば、面接で戸惑うことも少なくなるでしょうし、自信を持って進路を選択することもできます。

そして、自分の思いを相手に伝えるために、社会人としての配慮を身につけておくとも良いでしょう。正確な言葉遣い、清潔できちんとした身だしなみ、書類を丁寧に扱い、心をこめて文字を書くことも大切です。日課として新聞を読み、社会の動きに関心を払っていると話題も豊富になるでしょう。いろいろな人の話に耳を傾け、自分の意見を口にする事で会話が盛り上がることもあります。こうしたちょっとした心がけが、これからの暮らしに潤いをもたらし、「欲しい」と思わせる人材に成長するための糧となるのです。

■ 文学部の就職

文学部に進学する時、その先の進路を考えて少し不安になったのではないのでしょうか。実際に、「文学」は就職に直結しにくいかも知れません。もちろん、専門性を生かして教員になる学生も数多くいます。専攻に関連する仕事に就くことも少なくありません。

一方、文学とは直接関係のない職場に就職する学生が多数いることも事実です。教員就職率の高い教育学科を除く各学科では、毎年、多様な職場に学生を送り出しています。文学部における学びは、感性豊かで魅力的な人格形成につながっています。新卒学生の就職では、即戦力となる機動力よりも、新たな場で柔軟に仕事に対応していくことができる可能性が評価されます。よく学び、視野を広げることこそ、良い就職活動の展開につながるはずですよ。

最後になりましたが、企業も就職活動そのものも毎年変化していています。他者の意見は大切ですが、身近に溢れる情報を無批判に鵜呑みにするのは危険です。自ら行動し、確かな情報を選んで就職活動に活用してください。

(書道学科 高橋利郎)

- 「ご苦労様」は、目上が目下をねぎらう言葉で、目上の人に使うのは失礼です。
- ② × 「お元気でございますか」 ↓ ○ 「お元気でいらつしやいますか」
「ございます」は「ある」の丁寧語。「いる」の尊敬語「いらつしやる」が適切。
- ③ × 「了解しました」 ↓ ○ 「かしこまりました」・「承知しました」
「了解しました」は、軍隊・警察用語。
- ④ × 「ちよつとおたずねしたいのですが」 ↓ ○ 「少々お伺いしたいのですが」
よりあらたまつた表現の「少々」を使い、「尋ねる」の謙讓語「伺う」を用います。
- ⑤ × 「何でも申し出てください」 ↓ ○ 「何でもおっしゃってください」
「申す」は自分が言う場合の謙讓語で、相手が言う場合に使うのは失礼です。
- ⑥ × 「ご持参ください」 ↓ ○ 「お持ちください」
「持参」は自分の行為に使う語で、相手の行為に使うのは失礼です。
- ⑦ × 「いま行きます」 ↓ ○ 「ただいま参ります」
「ただいま」はよりあらたまつた語。「参る」は、「行く」の謙讓語。
- ⑧ × 「ご承知のように」 ↓ ○ 「ご存じのように」
「承知」は自分が「知っている」場合に使う語で、相手に使うのは失礼です。
- ⑨ × 「よく知っております」 ↓ ○ 「よく存じて（存じ上げて）おります」
「存じる」は「知る」の謙讓語。人物を知っている場合は、「存じ上げる」。
- ⑩ × 「すみませんが」 ↓ ○ 「申し訳ありませんが」・「恐れ入りますが」
「すみません」は気軽に使われるが、あらたまつた席にはふさわしくありません。
- ⑪ × 「何をお召し上がりになりますか」 ↓ ○ 「何を召し上がりますか」
「召し上がる」は、「食べる」の尊敬語で、それだけで十分敬意を伝えられます。
- ⑫ × 「何にいたしますか」 ↓ ○ 「何になさいますか」
「いたす」は「する」の謙讓語で、自分について言う語。尊敬語は「なさる」。

・なお、お手数ながら折り返し御返信を賜りたく、よろしくお願い申し上げます

▼宛名につける敬称

様 最も一般的なもの。目上・同輩・目下の別、男女の別なく用います。

殿 公用文、商業文で用います。

先生 自分が指導を受けた人をはじめ、教師、医師、議員その他社会的に指導者の立場にある人に対して、敬意をこめて用います。
御中 会社、官庁、団体などにあてられる場合に用います。「大東文化大学御中」など。

各位 同文を多数の人にあてられる場合に、一々の個人名に代えて、「会員各位」などと用います。「各位」の下には、様、殿などは不要です。

■電子メールの書き方

- ・件名は、必ず入れ、用件の内容が具体的に分かるように、簡潔的確に書きます。件名のないメールは、相手に不審がられます。
- ・冒頭に相手の名前を書きます。手紙の頭語・前文・結語などは、電子メールでは不要です。
- ・初めてメールを送る場合は、自分の名前と自己紹介から始めます。どのような手段で相手のアドレスを知ったかも書いておくべきでしょう。
- ・メール本文が読みやすいように工夫すべきです。一行があまり長くなりすぎないように改行を多くしたり、一行空けて書くなどするとよいでしょう。
- ・返信メールはできるだけ早く。返事に手間取るなら、受信確認だけでも伝えたいものです。
- ・同じメールを複数の人に送信する場合、メールアドレスの流出に注意すべきです。メールを複数の人に送る方法には、宛先欄に複数のアドレスを入力する方法と、CC（カーボンコピー）機能かBCC（ブラインドカーボンコピー）機能を使う方法があります。BCCメールは、受信者側に他の人のメールアドレスが見えないようになってるので、情報の流出を防ぐことができます。
- ・メールを使用するのが適当でない場合があるので注意を要します。慶弔の連絡をメールで送信するのは、特に相手がそれほど親しくない場合は避けるべきです。年賀状の返事をメールで済ませるのも失礼に当たります。守秘義務を要するような重要な情報をメールで伝達するのは危険です。

■敬語の使い方

- ① × 「ご苦労様でした」 ↓ ○ 「お疲れ様でした」

- ・皆様お変わりなくお過ごしのことと拝察申し上げます
- ・御一同様いよいよ御多幸の由、お喜び申し上げます

〔自分側〕

- ・おかげさまで私どもも元気に暮らしております
- ・なお、当方相変わらず元気にしておりますので、他事ながらご安心ください

▼結びの挨拶

- ・まずは、遅ればせながらご報告申し上げます
- ・右、略儀ながら書中をもつてご挨拶申し上げます
- ・右、取り急ぎご報告まで

〔自愛・繁栄を祈る挨拶〕

- ・気候不順の折から御自愛くださるようお念じ申し上げます
- ・時節柄二層御自愛御発展の程お祈りいたします
- ・末筆ながら皆様の御清祥をお念じ申し上げます
- ・末筆ながら貴家の御多幸をお祈り申し上げます

〔乱筆・悪文のお詫び〕

- ・以上、取り急ぎの乱筆恐縮に存じますが、よろしく御判読の程お願い申し上げます
- ・以上、乱筆悪文のため、お見苦しい点多いかと存じますが、ご容赦の程お願い申し上げます

〔後日の約束と返信の請求など〕

- ・なお、恐縮ながら近日中に御来訪を賜りたく、よろしくお願い申し上げます

▼ 頭語と結語

《頭語》 拝啓・謹啓（丁寧）・拝復（返信）・復啓（返信）・前略（はがき）

《結語》 敬具・敬白（丁寧）・かしこ（女性のみ）・早々（はがき）・不一（はがき）

▼ 時候の挨拶

一月 厳寒の候・酷寒のみぎり・寒気ことのほか厳しい毎日が続いております

二月 余寒の候・晩冬のみぎり・梅のつぼみもそろそろ膨らみ始めました

三月 早春の候・軽暖のみぎり・寒さもだいぶゆるんだように思われます

四月 春暖の候・陽春のみぎり・春たけなわの季節となりました

五月 新緑の候・薫風のみぎり・若葉の季節となりました

六月 初夏の候・向暑のみぎり・梅雨空のうつつとうしいころとなりました

七月 盛夏の候・炎暑のみぎり・連日厳しい暑さが続いております

八月 残暑の候・暮夏のみぎり・立秋とは申せ厳しい暑さが続いております

九月 秋涼の候・新秋のみぎり・朝夕はようやくしのぎやすくなりました

十月 秋冷の候・清秋のみぎり・灯火親しむ好季節となりました

十一月 晩秋の候・向寒のみぎり・朝夕はだいぶ冷え込むようになりました

十二月 初冬の候・寒冷のみぎり・寒さもひとしお身にしみるところとなりました

正月 新春の候・希望に満ちた新年を迎え、気分も一新いたしました

年末 歳末の候・年の瀬もいよいよ押し詰まってまいりました

▼ 安否の挨拶

〔相手側〕

・その後いかがお過ごしでしょうか、お伺い申し上げます

・先生にはますますお元気で、活躍のことと推察申し上げます

文学部連絡先一覧

主に単位のこと、授業のことなど

■東松山教務事務室	管理棟 1 階	0493-31-1511
文学部事務室	板橋校舎 1 号館 1 階	03-5399-7324
日本文学科事務室	板橋校舎 2 号館 4 階	03-5399-7358
中国文学科事務室	板橋校舎 2 号館 4 階	03-5399-7360
英米文学科事務室	板橋校舎 2 号館 8 階	03-5399-7362
教育学科事務室	板橋校舎 2 号館 3 階	03-5399-7364
書道学科事務室	板橋校舎 3 号館 3 階	03-5399-7336
歴史文化学科事務室	板橋校舎 2 号館 3 階	03-6912-3307

教職、学芸員、図書館司書などの資格のこと

■教職課程センター（東松山）	管理棟 2 階	0493-31-1537
同上（板橋）	1 号館 2 階	03-5399-7320

大学生活で困ったことがあったら

■東松山学生支援課	管理棟 1 階	0493-31-1509
学生支援課（板橋）	1 号館 1 階	03-5399-7317

心身の健康管理

■診療所（東松山保健室）	管理棟 1 階	0493-31-1510
同上（板橋保健室）	1 号館 1 階	03-5399-7318

留学についての相談など

■国際交流センター（東松山）	4 号館 2 階	0493-31-1536
同上（板橋）	1 号館 2 階	03-5399-7323

DB PORTAL や大学公式サイト掲載 (<https://www.daito.ac.jp/guidance/>) の DB Handbook (学生手帳) にも事務室等連絡先一覧があるので、参照してください

大東文化大学文学部
新入生サブテキスト
文学部へようこそ
2024

2016年4月1日 第1版発行
2017年4月1日 第2版発行
2018年4月1日 改訂第1版発行
2019年4月1日 改訂第2版発行
2021年9月1日 改訂第3版発行
2022年6月1日 改訂第4版発行
2023年6月1日 改訂第5版発行
2024年4月1日 改訂第6版発行

編集

大東文化大学文学部教務委員会

日本文学科・中国文学科・英米文学科・教育学科・書道学科・歴史文化学科（共同制作）

発行

大東文化大学文学部

